

Vol. 2
¥690

伝説のラストシューーティングから
次世代機誕生へ!

GUNDAM MS HISTORICA

ガンダム
MSヒストリカ

ガンダム直系機特集

Gを継ぐもの

RX-78-2 ガンダム RX-178 ガンダム Mk-II

RX-79[G] 陸戦型ガンダム RX-79[G]Ez-8 ガンダムEz8

ガンダムの世紀 皆河有伽
第2回 最強の機体を求めて

GUNDAM SIDESTREAM ガンダム・サイトストリーム
第2回 SDガンダム・発展編

GUNPLA Revelations ~ガンプラ30年の歩み~
第2回 MGの登場から始まった第2次ガンプラブーム

伝説への道

新機体

幾多の
ニュータイ
ジオン公国軍の開発した
終焉を迎えるとする一年戦争の戦場を駆け抜け

めようとしていた。
その機体は、
自らの運命を掌握し、

MAN-08





進化の果てに

最強MSの完成

ガンダムを最強たらしめたニュータイプ・ハイロット だがその真価を發揮するには、最後の改造が必要だった。

構成・文 日下部匡徳

マグネット・コーティングと ニュータイプ・ハイロット



リネト
・ランクA級
機理を受け、機械
に対する反応速度は
大き・向上
した



結局、向かう大戦末期、あなたひ乍らへと
かかったガンダムは、当初想定された以上の完成度
をもった機体となっていた。

半純なスヘルクだけならば、すでにシオン公国軍の新鋭機の方が上回っており、MSのビーム兵器の構成も、一般化しつつあった。当時、もはやRX-78シリーズの優位性は失われたといつてもよかったのだが、それでもRX-78 2ガンダムは、無敵といつて、絶対的な強さを誇っていた。

その最大の理由は、ハイロットであるアムロ・レイが、ニュータイプ（宇宙空間に適合し、より拡大された認識能力と耐衝撃力を獲得した新人類）といわれている）だったことにあるとされている。

だが、果たしてそれだけだらうか？ シオン軍が導入したニュータイプ専用機のように、ニュータイプの能力をそのまま機体コントロールに用いているものとは異なり、ガンダムはあくまで單なる高性能なMSにすぎない。

アムロ・レイの操縦を受け入れて情報処理を行い、機体を制御していくのは、RXシリーズに搭載された教育型コピーライタ・システムたる過去数ヶ月にわたる練習データの蓄積によって、システムがアムロの動作から意図を察して、細部の機体コントロールを補足し、ニュータイプ

の瞬間的な反応をほぼ完璧に内現することに成功していただけである。

だが、駆動系はそうはいかなかった。18メートル/秒（1人気の機体をアムロの反応速度のままに稼働させることは、最新技術のフィールト・モーターをもってしても困難だった）とのた。

駆動系の反応速度に問題があるとわかると、急遽、まだ実戦未経験にあったマグネット・コーティング技術が投入された。これは、モノポールを1とする磁気エネルギーを利用して、駆動部の機械的干涉をほぼゼロにすることで、反応外の向1とハワー伝達の動作を回復するというものだった。

一年戦争を終結させた 究極の機体

マグネット・コーティングの開発者であるモスク・ハン博士も、この技術の投入でどれほどの効果が上がるか懐疑的であったと、う。

たが、駆動系のボトルネックを取り戻されたガンダムは、想像を超えたホンキシャルを発揮した。直接想てるコントロールするシステムではないものの、ハイロットの思考をある程度トレース可能なまでに成長した教育型コピーライタといいまして、ガンダムはニュータイプであるアムロ・レイの思考を操作に、十分追従できるだけの応速度を獲得した。

このよう進化を経たカノンダムは、一年戦争時ににおいて、MSの頂点の神にいたと、えよう。

このカノンダムに対して、シン用はなりかまわす。秘密兵器ともいえるニュータイプ・ハイロットの搭乗した新型MSを投入している。特にMAN-08エルメスは、ミノフスキー粒子の武器でも逆剛コントロールが可能な小型機動砲台、ヒットを1兵装とするニュータイプ専用の強力なMAで、実戦参加初日に4隻のサラミ級を撃沈したほどの機体だった。しかし、カノンダムはエルメス・ハイロットによる全方位攻撃をかいくぐり、これを伏めている。

RX-78-2 GUNDAM SPEC

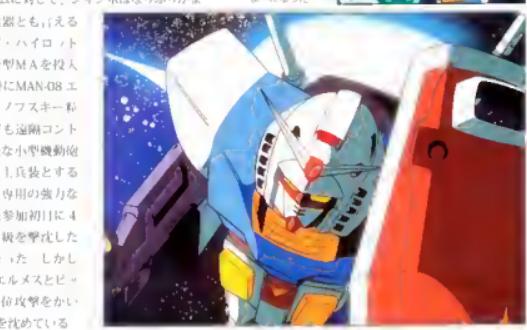
| | |
|------|---|
| 全高 | 18.0m |
| 本体重量 | 41.4t |
| 全機重量 | 60.0t |
| 主武器 | 9・出力 380MW ・ノズル・能力 5500kg ・ビーム・射程半径 5,200m |
| 装備武器 | ・ナックル・ウム ・武装・ビーム・ビーム・ビーム・ビーム ・ビーム・フル・ハイ・ローラム・ハイ・マ ・ビーム・ハイ・マ・爆撃・カカ・爆破・2・フル・ |

最終的にカノンダムは、ア・ハイア・キーに上陸後、ニヤア・アズナブル搭乗のニータイプ専用機、MSN 02・ソーナと相討ちの形で倒れているものの、機のMSとしては歴戦の戦果と、シオン軍の闘争では恐怖とともに語り継がれた伝説的戦いぶり（人の1を奪うにれて、かなりの誇張が加わったことは否定できないか）もあって、この時代を象徴する機体として、人々の記憶に残っていくことになった。

そして後に、ガンダムの名を継ぎ、揚げるMSには、ある資格—究極の機体であることが求められるようになっていたのだ。



一年戦争を終
結したカノンダム
は、いつしか伝説
の機体と呼ばれる
ようになつた



RX-78-2 GUNDAM

闘いの記録

BATTLE CHRONOLOGY

宇宙世纪

0079年12月4日 ホワイトベース、
サイド6のコロニーに要港

5日 地球連邦軍、アフリカ、北米にて
ジオン公国軍と交戦 戦作戦室

18日 ガンダム、コンスコン連の
リック・ドムを主導撃破

24日 連邦軍、ソロモンを攻撃
ガンダム、ジオン宇宙軍攻撃室司令
ドスル・ザビ中佐の操る
ビグ・サムを撃破 戦撃

25日 連邦軍、ソロモンを接收し
コンサイトクを名づける
ジオノ星。ソーラ・レイ・システム
の準備を整える
ガンダム、テキサス・コロニーで
シャアのゲルググと交戦 戦闘

29日 星一等作戦（連邦軍の
ジオン本土への進攻が目的）発令

30日 ガンダム、エルヌスを撃破 戦撃
ジオノ星、ソーラ・レイで
連邦軍主力艦隊の30%以上を消失
させる

連邦軍はレピル南軍。
ジオン軍はデギン・ザビ公王を失う

31日 周辺軍攻撃艦隊。
アーヴィア・クーを攻撃
ガンダム、ジオン軍と交戦し、
相討ちに 戦闘

ジオン軍、ギレン・ザビ副帥、
キシリア・ザビ少将を失う

0080年1月1日 一年戦争終結
ジオン公国、ジオン共和国となる



アバランチの最終決戦

©ネクサス・コロニーでの戦いとソロモン軍の日付は

TV版の物語に基づいて記したものです

BATTLE DOCUMENT 06

RECORD

TIME: U.C.0079.12.24

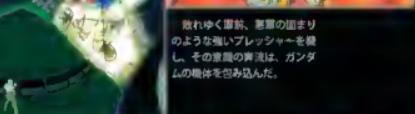
PLACE: ソロモン

ENEMY: ビグ・ザム

パイロットはドスル・ザビほか



恐怖のビグ・ザム



宇宙要塞ソロモン攻略戦の終盤、連邦軍
の陣営に斬り込んでいく一機の大型機動兵器
があった。その名はビグ・ザム。ジオン
軍がひそかに開発を進めていた新鋭兵器MA
である。

遠距離からのビーム攻撃を弾くビーム・
パリアで守りを固め、多数のオオ粒子砲で
武装したビグ・ザムは、瞬く間に多数の戦
艦を宇宙の塵へと変えていった。

向かうところ敗なしと思われたビグ・ザ
ムだったが、至近距離から死角へ飛び込ん
できたガンダムが張るラビーム・サークル
によってダメージを受け、爆散するのだっ
た。

ジャブローでの戦いを経て、ついに決戦の宇宙へと上がったガンダム。
そこに待っていたのは、ジオン軍の秘密兵器であるMAとニュータイプ・
パイロットたちだった。大戦終局にむけて、激闘の幕が上がる。

テキサス・コロニーの決闘

RECORD

TIME: 10:00-12:25

PLACE: テキサス・コロニー

ENEMY: ゲルググ

パイロットはシャア・アズナブル

一年戦争の混乱のうちに放棄され、砂漠化の進む元観光コロニー、テキサスで、ガンダムは今まで機動戦士なく激戦を繰り広げてきた相手……赤いMSと遭遇する。

それは、ガンダムをも超越するスペックを誇り、ビーム・ライフルとビーム・サーベルも装備した新型機、ゲルググだった。

砂漠の舞う荒野での、一対一の決闘が始まった。地形を利用し、あるいは相手の不意をつき、必殺の意志を込めて攻撃戦、そして反射が展開される。

意詰まる攻防の末、ガンダムはゲルググを追いつめ、撃退させる。



ゲルググは猛攻を繰り返し、ガンダムを地獄深へと誘導しようとする。本気で撃たねば筆倒すにすらならなかつた。

シャアの駆る 新型MSゲルググとの 一騎討ち

ララアとの哀しい結末

RECORD

TIME: 11:00-12:30

PLACE: コベントラーア・パオア・クーの要塞

ENEMY: エルメス

パイロットはララア・スン



機動戦士ビットによる全方向からのビーム攻撃。死角のないはずの攻撃も、ガンダムには通じなかつた。



ニュータイプ専用機の脅威



サイコミュで機体を操るニュータイプ専用機エルメス。撃懾されたやさく奪り去ったその攻撃を避け、ガンダムはエルメスへ対処する。

その刹那、両機のパイロットは精神を共鳴させるが、ビーム・サーベルに刺されたエルメスは爆発し、二人の運命は一瞬で終わりを告げた。

電光のように精神が飛り、パイロット同士の意識が共鳴する。



ビットを確徳され、本体のビーム砲で反撃するエルメス。だが、ガンダムはそれをかいくぐっていく。

ゲルググを狙ったビーム・サーベルが、躍となつたエルメスのコクピットを爆破する。

RECORD

TIME: U.0.075-12.31

PLACE: ア・ピア・ター

ENEMY: ジオング

パイロットはシャア・アズナブル

決戦! 究極の戦士たち



ジオングはミニピュレーターが複式ビーム砲になっている他、多數の武装を持つ。

戦後の一回りが訪れた。

相対するガンダムとジオング。ジオングは公軍の威信を懸けた機体と、戦いの中で進化を遂げた究極の機体とが激

する。

互いの機体を削り取るようにして統けられた戦いは、壮絶な相討ちで幕を下ろしたのだった。



終局の戦場で激突する
最強のMS



ジオングに向かうガンダム。敵の武闘を封じ、僅位に立ったと思われたが……。



ジオングの機体で残ったのは、頭部のみ。ガンダムもまた頭部と左肩を失う。頭部の一撃を放つと、頭部の一撃を放つと、ジオングを完全に撃破する。但し、その際にパイロット同士の生身の命が犠牲にされた。



THE RIVAL

ガンダムの前に立ちふさがった、ジオングが持る数々のMS群。そのうち、ガンダムのライバルたる資格をもつのは、シャアが操る機体だけだ。

YMS-14 ゲルググ

SPEC

重量: 16.2t
本体高さ: 42.1t
全機高さ: 73.2t
ジオング一基/1,440kW
スラスター出力: 63,000kg
センサー: 視界半径: 6,000m
装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足
実装/ビーム/ラグブル
ビーム/ナギナタ
専用シールド



ジオング軍が大戦末期にロールアウトした、「馳ってきた名機」。ジエネレーターーやスラスターの出力はガンダムを上回り(装甲材質はRXシリーズに劣る)、機体のバランスや運用性の高さも優れている。

MSN-02 ジオング

SPEC

全高さ: 17.3m
半身高さ: 151.2m
全機高さ: 203.9m
ジオング一基/9,000W
スラスター出力: 167,000kg
センサー: 視界半径: 91,000m
装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足
実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/ガガニス電

胸部/頭部/手足/足

本体高さ: 2.2m

本体重量: 1,000kg

全機重量: 15,000kg

ジオング一基/9,000W

スラスター出力: 167,000kg

センサー: 視界半径: 91,000m

装甲厚さ: 胸部/頭部/手足/足

実装/ビーム/

Gを継ぐもの



一年戦争において驚異的
な戦闘性能を発揮したRX-78-2 GUNDAM。
それは最先端を、最高の性能を、
もはやガンダムとは単なる機種名ではな
い。それは伝説の始まりである。それは歴史的

RX-78 GUNDAM Mk-II
RX-79(G) GUNDAM GROUND TYPE
RX-79(G)Ez-8 GUNDAM Ez-8



イラスト：岡田兼治

黒いガンダム

一年戦争の災禍から7年。いまだ混沌のなかにある地球圏に、黒いガンダムが降り立った。それは圧政者たちの、断罪の矛。たか時代はガンダムを、白き解放者へと染め替えた。最も歎奇な運命を辿ったMS、ガンダム Mk-IIのすべてを、以下に記す。

岡島正晃
構成・文：高嶋規之

終わらない争乱と ティターンズの台頭

UC 0080年1月に終結した一年戦争。人知史一、初めて山をも舞台としたこの戦いは、同時に人類史一、最後の災禍をもたらしたことでも名高い。電磁波を無効化するミノフスキー粒子、旧米の軍事トクトリンを、変させた新兵器MS、そして地球へのコロニー一揆とし、国力比にして地球連邦の30%の1以上であったにもかかわらず、シオン公国軍はこれらによって破竹の進撃を続け、実に総人口の半数を死にからめたのである。おそらくこれ以上の悲劇は、歴史には存続しないだろう。たか時代の入道を経てなお、地獄開拓に平和からたらされることはない。

もとより、一年戦争の背景には、開拓以前から続く地球連邦の戦がある。弱りの地球至上主義者の集団であつた「当時の連邦政府は、事実上の東洋政権としてさええだした人口を宇宙へ遣りやり、奪取をほいままにしてきたのである。無論、スペースノイドの自衛独立を求める動きも少なくなかつたが、そうした思想的背景がザビ家の暴走を許し、一年戦争が勃発。結果として、勝者である地球連邦に更なる圧政の大義名分をうけてしまったのだ。戦後処理を終えてなお、スペースノイドの不満はすすり続け、地下に潜伏した旧ジオン軍もまた、力を収めることがなかつた。

その最初の表出が、UC 0083年のデラーズ紛争である。地球連邦軍とA.E.C.が秘密裏に開発した、核装備の新型ガンダムを専用したジオン軍機、デラーズ・フリートが、連邦軍の観艦式を強襲、多くの艦船を撃沈せしめたうえ、無人のコロニーを北米大陸に落とさせたのだ。この事態に震え上がった連邦議会は、右派勢力によって掌握され、遂に旧ジオン軍の候補を目的とした特務

部隊「ティターンズ」を編成。ほどなく地獄開拓圏において、ごく普通の学生や知識人層にまで弾圧の手が伸び、皮肉にも反連邦の気運を高めてゆく。やがて迎えた、UC 0087年。憎しみの連鎖がもたらす新たな緊張の糸は限界まで張りつめ、もはやいつ切れてもおかしくなった。

だからこそ、ティターンズは必要としたのである。スペースノイドを撃滅させ、暴動させる力を認めた、新たなる「ガンダム」の力を。

連邦系技術の集大成

民間人の少年に操縦され、一年戦争を連邦軍の勝利へ導いたと言われるMS、ガンダム。当時の地球圏において、その名は一種の戦場伝説と化していた。これに目をつけた連邦軍は、ティターンズの正統性を象徴する存在として、新型ガンダムの開発に着手したのである。

その最大の特徴は、初十歩でムーバブル・フレーム構造を全面導入したことであろう。これにより、従来機とは比較にならないほど俊敏で、かつ人間に近い動作が可能になっている。だがその一方、装甲・構造材は旧式のチタン合金セラミック複合材。このアシパンサスな仕様は、一年戦争後に接収した旧ジオン系のMS開発技術を一切用いていないことに起因する。もとより一枚岩ではない連邦内部において、幾多の政治的擦り合いと機械開拓に見廻す疑心暗鬼、意地の割り合いか横行したであろうことは、想像に難くない。ティターンズをして「我々の、我々による、我々のためのガンダム」と言わしめたように、それは混沌の時代を象徴する、高度に政治的なMSであった。

黒き抑圧者として

こうして完成した新たなガンダムは、「ガンダム Mk-II」と呼ばれる。3機の試作機がティターンズによって受難される。だが、一部にアンバランスな部分こそあれ、完成度は極めて高かったこの機体が、ティターンズはコロニー内戦開用と考えていた。即ち、スペースノイドの反乱分子鎮圧用である。ニュータイプの少年が駆ったかつての伝説の機体が、スペースノイドの開拓用に用いられる皮肉。ティターンズの部隊カラーであるダークブルーに塗装された「黒いガンダム」に、往年の「古いMS」の面影は、もはやなかった。

だが、誰が予想し得たろう。この「黒いガンダム」に、かつての伝説を上回る、劇的な運命が待ち受けているようだ。

グリーン・オアシスにおけるテスト飛騨Mk-IIの歎奇な運命は、ここからはじまった。



ジム・クウェル。オーガスター基地系の機体で、Mk-II配備以前のティターンズ主力機。対人戦闘に重点が置かれ、センター性能の向上が図られている。ムーバブル・フレームの先駆けとなる技術が採用されており、Mk-IIの母体となつた。



祐助
「黒い
人物事さえ確執の
私次に利用した。



RX-178 GUNDAM MK-II

SPEC

機体名
本体重量
全機重量
ジムアーム
スループ力
セイバー
有効射程
装備付属
武装
モード
力
モード

イラスト 小笠原智史

白き解放者へ

Mk II の開発経緯を見れば明らかかなよ。——地球連邦は決して一枚岩ではなかった。その内部にそら、ティーターンズをしとしない勢力が存在したのだ。Mk II 完成と相伴して、地球連邦軍准将 ブレックス・フォーラー率いる反ティーターンズ勢力 エゥーゴーが、連邦軍主流派に反旗を翻した。時は U.C.0087 年 3 月 2 日、エゥーゴーの M.S. 部隊が Mk II のテストを行っていたクリン・オア



第一次ネオ・ゾーンの戦争ではエゥーゴー率いる連邦軍となり、クリン・オアの手を振った

機の奪取に成功する。

連邦がいたずらか、うち1機はティターンズ

反感を爆発させた民間人少年「カミー」とハリ。それはまるで、年戦争の伝説の再来を見るかのようであった。さらに残る1機も、ティターンズと決別した同隊員は、エマーリーによってエゥーゴーの徹底アーマーに到着。機体カラーパークから白へと改められ、以降カラーミュウのうちにエマーリー乗機として、エゥーゴーとティーターンズの全面抗争 クリフス戦役を戦った。まさにその終結後も、続く第1次ネオ・ゼオン戦争までエゥーゴーの力として戦ったのである。

日敗者の悲劇に誕生した、黒い機体。たがそれはU.C.0087 年 3 月 2 日、自由と解放の象徴となった混沌の時代を駆け抜けた本機 ガンダム Mk II こそ、史に最も 創的なるカンドム。なのである



カミーの奮闘性



カミーの奮闘性

Basic Knowledge of G

変わりゆく世界

一年戦争、デラーズ船争を経て、地球圈はいかに変わったのか。

コロニー再生計画とサイドの再編

総人口の半分が死亡するという未曾有の災厄をもたらした一年戦争。無事その終結には、地球圏も羅敷以南に倒してしまはれなかつた。コロニーが蓬生しシドニー圏が消失した地球のオーストラリア大陸はもちろらん、各サイドもまた大きな被害を蒙っていたからである。このため戦後には、各コロニーからの復興問題が顕在化。連邦政府とコロニー公社は、移種コロニーの移設と新規開拓を軸とする「コロニー再生計画」を実行し、その過程でコロニー再生も新規に取り組まることとなつた。

具体的には、面積当初の「オーパーク軍団」で攻撃対象となつたサイド4(ムーラ)が新たにサイド6。ルウム戦役で事実上壊滅した旧サイド5(ルウム)が新サイド4とされ、これに伴って中立コロニーであった旧サイド6にサイド5のナンバーが振り分けられている。コロニー再建と共に立ち、G3 ガズで高民が殺害された旧サイド1(ハッピ)は再建の途端にあり、U.C.0087 年時点では 50 基ほどのコロニーを擁している。旧サイド7(ゾア)は名稱のみ、グリーン・オランジに改められた。

アクシスの動向

コロニー再生の宇宙居住地としては、ジョン公園が火薬と木薬の機のステロイド・ベルトに構成していた小惑星基地、アクシスがある。地球圏から離れたその立地上、内部に商店街まである高い独自自能力を有したために隕石飛来による資源収集の拠点となっていた結果、戦後は要塞化に拍車がかかり、独自開拓の M.S. 軍団まで有する大惑星軍団の本拠地としている。無敵の「国壁」はジョン公園にあり、U.C.0083 年のデラーズ船争では秘密裏に支那艦隊を派遣。この時はまだ連邦と事を構えるのを避け、主としてデラーズ艦隊の生き残り戦兵を数多く救出していたが、U.C.0088 年には遂に小惑星に設置したビルス・エンジンに点火。地獄への移動をはじめ、U.C.0087 年の地球圏に到着。グリップス戦役で隕石の一角を狙い、続く第1次ネオ・ゾーン戦争では、連邦軍主流派となつたエゥーゴーと全面衝突した。

グリップス戦役開戦時の地球圏勢力図

アクシス

ジョン公園本部が運営する小惑星基地。旧沿岸開拓を中心とした資源開拓を得意としている。

アースノイト

地球圏居住者達は、かつては連邦政府にあつた者がいたが、地球連邦政府の無能と地球資源の悪化化により、困窮している者も多い。

連邦

アナハイム・エレクトロニクス社

月に拠点を置く、世界最大規模の荷物コングロマリット。興味深い事は、M.S.を導入している。

地球連邦軍

陸軍至上主義を貫く者ぞ。スペースノイドへの配属を拒んでいた。

ティーターンズ

地理至上主義に基づき行動する、地獄連邦政府の構成員。資源開拓を主な活動としている。

協力

連邦

スペースノイド

スペース・コロニー半ば強制的に連邦させられた宇宙居住者達とその子孫。地球連邦政府への不満を漏らしている。

連邦

エゥーゴー

スペースノイドによる革命的な爆発だったが、次第に首領を始め、反地球連邦組織として活動し始めた。

協力

カラバ

エゥーゴーと協力し、地理で活動する真民連。地獄連邦民と反ティーターンズをもつ連邦軍勢力によって構成される。

宇宙世纪0087年の地球圏



ガンダムMk-IIの設計思想

特殊な開発経緯をもつガンダム Mk-IIは、いささか非効率的とさえいえる保守性と、いくつもの抜きん出た先進性を併せ持つ、希有な機体であった。これより、その詳細について紹介していく。

ムーバブル・フレーム

外骨骼から内骨骼構造へ。Mk-IIの仕様のうち、最大の特徴となっている極めて革新的な事項が、このフレーム構造の採用である

ムーバブル・フレームとは、MSを骨格と筋肉を持つ人間に見立て、神経の代わりに各種電気系を、血管の代わりに燃料系を、筋肉と関節の代わりに駆動系をフレームに組み込んだ方式で、カンドム VR IIにおいて初めて実用化された。

それまでのモノノック方式（ジオン公国軍 あるいはセミ・モノノック方式（地連邦軍）とは違い、主機能と補助機能を組み合わせた複合式簡便を採用、さらに装甲をフレームから切り離すことで航跡の可動域を大幅に広げるという、設計上の革新をもたらした。

この方式は、フレームのスライドや回

軸輪に合わせて装甲が移動することで、開節への干渉を極限まで抑え込むというコンセプトのもとに考案されていた。

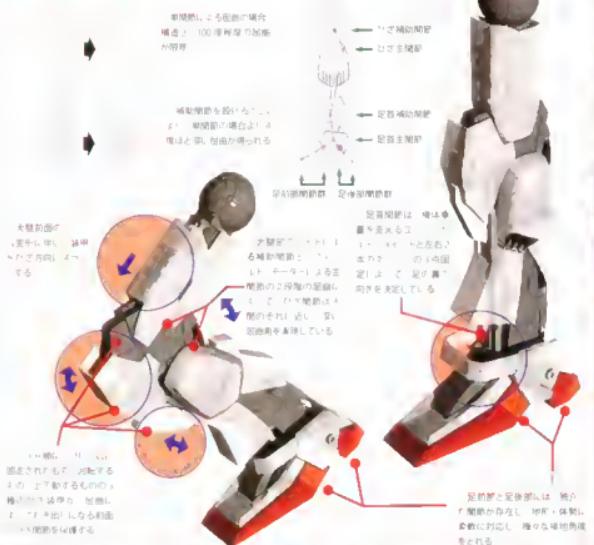
従来の方式と比べると、可動部位が増えた分、部品点数も増加しており、整備が煩雑となつたきらいは否めない。

だが、第1世代機に比べて機体の運動性が大幅に向上了ることは間違いない、この技術の確立を以て、M5は大きな進化の道へと一步踏み出したのである。

1996-1997 學年上學期



ムーバブル・フレームの 関節と装甲の構造



全天周型モニターとリニアシート

機体の周囲をほぼすべて映し出すモニターと、磁力で半ば浮遊した状態にあるシートは、この時代の標準的な仕様となっていた。

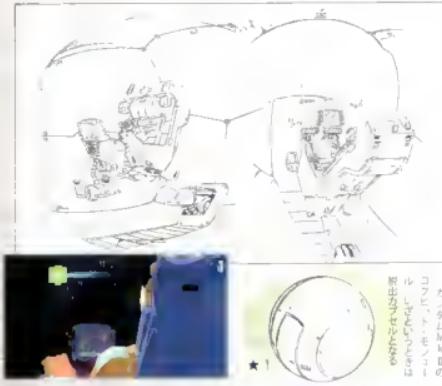
ジオン公国軍がM5を初めて実戦に投入したところは、対宇宙戦闘艦および戦

甲軍艦が主導権だった。だが地球連邦軍がM5を駆使化すると、交戦範囲が極端で狭くなり、M5の敵M5'などという状況が頻発。操縦系統の設計を戦闘環境の変化に合わせる必要が生じた。

当然のことながら、従来型のコリッペトレイアウトではなくかと不都合が生じやすく、実際、連邦軍兵器開発局はM5審査部に属するテスト・パイロットがらも、

なんらかの改善を施すべきだといつてはいる。

そうした要求から生まれたのが、全天周型モニターとリニアシートを組み合わせたコクピット設計である（M5の小型化からシレントとなる宇宙世紀0120年代にて、主導を占めた）。壁面に近いニシータを採用することにより、開口とされた死角の極小化に成功。さらにリニアシートは身体への負担を和らげる効果を發揮し、作戦行動時間も大幅に延ばす結果をもたらした。



政治が技術に優先した材質選択

最先端の機体であるべき「ガンダム」の名を冠していながら、Mk IIにガンダリウム合金が採用されなかつた理由とは……

ガンダムMk-IIの装甲材であるチタン合金セラミック複合材は、一世代前の古い材質であり、この点においてMk IIは、時代遅れの機体だと言っても過言ではなかつた。

ただこれは、ティターンが連邦の技術にのみ与った結果であり、当時の開発過程自体はこの使用決定に大きな不満を持つていたといわれる。



確かに材質は古いけれど、それによって時系列

ガンダリウムと第2世代MS

ガンダリウムと呼ばれる新素材の登場は、さらなるMSの進化を促すことになった。

ガンダリウムとは、旧オランダ公国軍の残党「アクシズ」がMX-78-01ガンダムの装甲材「ルナ・タニウム合金」を解析、研究して生み出した。軽量かつ強い特徴をもつて開発された新素材である。

いさか怪しげな経緯でこの技術を入手した、現のアーナハイム・エレクトロニクス社は、さっそく新型MSの開発をはじめた。開発チームの陣容は旧ZONIC社の技術者を中心としたもので、完成した機体はさながらロボオ

ン公国軍の傑作M5ドムを思わせた。これが後半材質ににおける第2世代機の原型となったリック・ディアス、そして開発の性急な結果、連邦連邦軍、特にティターンズに強い影響を与えた。

さらにこれらの技術は、可変機構をもつて第3世代MSを生み出した。機体のブロック構造化と軽量化は、リニアシートの推力と方向性に集中させる要望を実現し、M5に高機動性と作戦可能距離の増加をもたらしたのだ。

あえて新機軸を排除した推進器

あらゆる点でトップレベルの性能を求めるMk II。高い推力を得るために開発陣が選んだ手段は、ごく順当なものだった。

カンダム神話の再現を望むティターンズは、Mk IIに高い推力をもつエンジンの選択を求めたが、次世代機の試金石となる以上、車体以外の採用は許されなかつた。そこで開発班が採り出したのは、主に開発エンジンの数を増やすという、

至極簡単な手段だった。しかしシンプル・レス・ベストの言葉が通り、時には想像力が方程式とか正確となることもある。事実、量産品たつたために機体と部品の確保が容易で、稼働率を常に高く維持することができた。



脚部ユニット構造とコ・ジェネレーター

ふくらはぎのスラスターを十分にドライブすることが可能な高出力のジェネレーターと、ムーバブル・フレームの関係性とは？

M5には複数のジェネレーターが搭載されているのだが、その出力レベルと組まれている数か性質の高低を決定すると云っても過言ではない。

つまり出力の高いジェネレーターを積めば積むほど「添削的」に性能が向上するのだが、この時代の技術では高出力ジェネレーターは大型にならざるを得ず、機体のキャパシティに限界がある以上、搭載できるジェネレーターの数やその出力には常に制限が付きまとつていた。

しかしムーバブル・フレーム方式が登場したこと、M5の設計はひとつのフレイムスルーランを認める、ユニーク化したコ・ジェネレーターをフレーム内部に組み込んでいることで、物理的キャパシティの問題をクリアしたのだ。

これによって、Mk IIの脚部はその出力の大きさにも拘らず、非常にコンパクトな設計となっているのである。



エウゴの主力を務めたMk-IIリック・ディアス。戦争の緊迫さに適して非常に軽量で、そのぶん戦闘が可能になった。

Weapons of RX-178

交換式エネルギー・ハックを採用したビーム・ライフルや、装弾数の問題をクリアしたバルカンとバズーカなど、Mk-IIの武装の歴史を紹介する。

専用ビーム兵器

★1



ビーム・ライフル

Mk-IIの主武装、XBR-87-C。史上初めてミルキーハイ・クロス式を採用。従来の名前として記される。

そもそもビーム・ライフルとは、ミノフスキー粒子を1フィールドで縮寸寸前まで圧縮することでミノ粒子を生成。それを弾体として任意に撃つ能力。つまりこれを「エネルギー・CAP方式」と言う。その正体は携行型ミノ粒子銃にほかならない。

ビーム兵器としてはこれに優るものはないと言わざるを得ない。ミノ粒子をいかに実用化から数年を経た0080年代においても、そのトライアルは莫大な費用が必要となるため、これをM-Sで運用できるようにするには、エネルギー・CAPの生成を得難い(あるいは無理)で、行はうがかった。

つまり実現しなくなつた場合、M-Sは本当に適してエネルギー・CAPを充電するか、もしくは充電済みのビーム・ライフルに兵装を交換するという手段しかなかつたのである。当然のことながら、作戦や戦闘は少なからず影響を受けること



エネルギー・ハックの交換は、M-Sのミニピュレーターだけで容易に行なうことができる

になり、その幅には機界が生じた。

しかし地球連邦軍技術本部は、次世代のM-Sのあり方を左右するガンダム Mk-IIの開発に当たりこの問題に挑戦、エネルギー・CAPをハッカージングすることに成功した。このエネルギー・バック方式の実用化により、ビーム・ライフルも実弾火器と同様に弾倉を交換することができるようになった。

ビーム・サーベル

★2



実弾兵器

Mk-IIにはビーム兵器の他に、ロケット・ランチャーや外装式の機関砲といった、弾頭に装薬を詰めた飛翔体や実弾を用いる兵器も用意されていた。こうした兵器は作戦に応じてチョイスされ、機体各部のマウント・ラッチに装着して出撃するところになる。

特にMk-IIはマウント・ラッチを多数備えているので、搭載できる兵器の数が他の機種に比べてはるかに多く、そのふんわり感脚力を発揮することができた。



ハイバー・バズーカ

交換式装薬を用意している。装薬システムはとにかく、構造は非常にシンプルなため、高い信頼性を有する。



防御装備

シールド

シールドにはアンチ・ビーム・コーティングが施されているか、耐えられるのは2~3発までである。



シールド・ランチャー

これはMk-II専用に開発されたものではないが、マウント・ラッチの現状さえ合致すれば装着させることは難しくない。



シールドには敵機や砲撃などから機体を守る盾だけではなく、予備のエネルギー・バックや武装などを収める機能も付与されている。さらに、打突攻撃に用いることができるよう、先端部が鋭く尖っている。

また、本体は2枚の装甲板から構成されており、必要に応じてスライドさせ全表面を覆ふことも可能だ。表面の構造面によって装備の収納空間の使用は切実なため、この仕様は大いに歓迎された。



バルカン・ボンド

向かって左側の渾身、右側が機関部ユニットである。通常機体も装着した僚作兵器。

ガンダムMk-IIの支援機材群

スーパー
ガンダム

高性能な新型MSに対抗するべく、ガンダムMk-IIの機動性向上と武装の強化が図られた。

ガンダムMk-IIの性能を高める可変戦闘機 FXA-05D Gディフェンサー

火力と機動性を大幅に増強

本機は性能的に見劣りしはじめていたガンダムMk-IIを、ふたたび一線級のMSたらしめることを目的に開発された補助機材である。しかしMk-IIを上回る推力を誇り、単体でもじゅうぶんな戦闘力を有しているため、単なる強化機材にとどまらず、大型戦闘攻撃機として用いられることも多かった。

その場合はMk-IIを牽制を務め、Gディフェンサーはトドメを刺す役割を担った。

SPEC

全長：39.5m
全幅：27.5m
全高：27.5m
本機重量：24t
全機重量：60t
スラスター推力：64,800kg
装甲材質：カーボンガラス
武装：レーザー砲×2 / リカン砲×4
14連装ミサイル・ランプ×2
ロング・ライフル



武装

Gディフェンサーの主武装はロング・ライフルだが、この他にもミサイルや、機関砲など実戦兵器も搭載している。

ロング・ライフル

標準武装のビーム・ライフルよりも高い爆発力をもつ



Gディフェンサーと合体したスーパーガンダム形態の速度性能を攻撃力はMk-II単体と比べて実質的にアップ。可変MS群にも引けを取らなかつた

△本機を假想Mk-IIと合体した場合、Gディフェンサーの追加装備と単体での運用には少々の相違がある

Gフライヤー

Mk-IIと合体した状態での飛行距離は飛行距離を飛行する場合では少々の相違がある

大気圧突入用の新装備

フライング・アーマー

MSの機動性を生かす特殊機材

フライング・アーマーは、アナターム・エレクトロニクスで開発が進められていた可変MS、Zガンダムのために製作された試験体を利用して意図された機材である。しかし水上滑走機能を有するなど、驚きの性能をもつ。



Mk-IIを載せて 通常態本部
ジャブローに降下していく

Mk-IIを運搬する大口径ビーム砲搭載機 FXA-08R メガ・ライダー

攻撃力と機動力を拡張

本機はクリプス戦役の後期に開発がはじまり、第1ネオ・ジオン戦争に際して実戦に投入された。これはメガ・ランチャーに機関砲と居住設備を付与した、一種の移動砲台であり、MS単体の火力では危険なことが難しい堅牢な陸地や駆逐艦の襲撃を目的に建造された



△のように巨大化して搭載する

Mk-IIの遺伝子

第2世代MSの時代へ

リーダムMk-IIは、のちに続いた「」の新型MSに、技術革新をもたらした

年戦争当時のMSを、第1世代・次世代型を、第2世代・と呼ぶが、後者の要件とは、1. ピーム兵器の搭載、2. 全人型モードなど、アーマーの採用、3. ハープル・フレームの採用、4. ガンダリウムより製の装甲などである。このうち、4を欠くMk-IIはいわば第1世代として呼ばれ、機体は、それにもかかわらず、ムーバブル・フレームの完成度は第2世代のエウーゴのRMS-099リキド・ディアスより高度なもので、その技術は何世代MSの誕生に

大きく寄与

可変MSの出現

Mk-II以降のMSのうちでも、Mk-IIの影響が大きい機体といえるのはMS-0010Gノヴァンタムであろう



MSN 0010G 百式

第2世代機の完成形。ムーバブル・フレームによる機動性と強度、「前倒し」装甲ではさけない。セミバトル面を主軸

エウーゴの主力として無数の砲火を浴び抜けたガンダムMk-II。その優れた基本構造は次世代のMSへ継承され、やがて、背負った宿命だけが残された

MSZ 006 ザク

Mk-II以降の「」の命運。ありで、王族のアーマーの運営力。その運営力は、基礎的な「」の運営力。しかし、実現し得なか



、兵器からの回避性能を同時に獲得し、想像を絶する高速戦闘の時代を迎えたのである

次世代の戦場を越えて

こうした技術革新は、Mk-IIを相対的に目立たせ、そして連邦軍内の勢力争いで過ぎなかつともいえるクリフス戦役では、投入MS數も連邦軍には程遠く、そのぶんMSの質が物をいう。彼のMk-IIは、高速度を駆使するその後半戦にあって、力不足は否めなかつところであろう

たがそれでも、Mk-IIは「」や「」、ライターといった機種機材をもたらす。遂には「」や「」、「」の「」として、東の間の平和が訪れるまでを長い長い。あるいはエウーゴ時代もまた、この「」にある神の象徴性を感じていたのかもしれない。戦争の宇宙を駆けた「」は、誕生は花火ではなく、未来に希望をついたもうひとつ。伝説となるのである

MSの型式番号規則

R[X/MS]-[10 ~ 19][0 ~ 9]

機種名 機種番号を示す
ナンバーを示す

一年戦争は連邦軍のMS型式番号も刷新。その法則は以下の通り。9を越える間隔距離は機種番号の「1」を「2」以降へ繰り上げて数す。歴史のXは試作機、MSは量産機。ただし実戦練習用のため実戦型の機種番号を除かれたリック・ディアスをはじめ、特殊な機体には例外も多い。

機種番号ナンバーワーク

- 10: グランダム
- 11: ルナーソーラー
- 12: コンバットワゴン
- 13: リニア・オーバー・エース
- 14: ベース工廠
- 15: ニューギニア工廠
- 16: キリマンジャロ工廠
- 17: グリーン工廠
- 18: ジャブロー工廠
- 19: ジャブロー工廠

飛行形態 ウィング・ライダー — 可変機種を有し、第3世代に分類される機体で、右翼となるウイング・ハイダーを支える強固なムーバブル・フレーム版には、Mk-IIのそれが応用されている。Mk-II拿捕より以前に可変MSとして開発されていたMSN 0010G百式は、背部ハイダーの強度不足で変形を免れ、トされた。この可変機種の導入により、MSは飛行形態時の推力集中による高加速、高速度と、MS形態時の高い運動性を両立。堅難脱などの斬新な戦術と、映弾が即、致命傷となりかねない



FMS-10B
マラサイ

本來はエウーゴのために開発していたが、「轟爆」として連邦軍に無償供与。同社の運営力もたがねたが連邦軍力を象徴するMS。



MMA-005 メタス

エグゼクタムの可変機種実機。同社の技術と資本をくじて、エウーゴの主力MS群が存在し得たことを示す好例である。

Basic Knowledge of G

アナハイム・エレクトロニクス社

エウーゴを支える隕の主役

グリス戦役戦時、地球連邦軍の主流派。ティターンズは反旗を翻したエウーゴには、連邦軍工場とは別に兵器供給ルートが不可欠になっていた。その役割を担つたのが、戦闘企業アナハイム・エレクトロニクス社である。

家庭界の旗をあつた同社は、一年戦争後に旧ジオニック社系の人に武器を収取、「アーマーから宇宙戦艦まで」と称される。巨大企業へ急成長を遂げる。その資金力、政治力は絶大であり、連邦軍の逆襲にも、「同社の意向を敗れて無視する者はいない」と言われるほどだった。

ただ、月面のウォン・ブランなどに見えた機体を、

エウーゴの新型MS開発を担った民間軍事企業。AE社。その成立と立ち位置をひもとく。

「月の導制君主」とまで呼ばれた同社は、純スペースノイド派でもあった。そのためティターンズがスペースノイド換形に動くと、市場確立のためにエウーゴへの出資を決定。ほぼすべての活動資金と独自開発のMS、艦艇までをも提供した。換算するなら、アナハイムこそがエウーゴの「命の本体」であり、グリス戦役の仕掛け人なのだ。



両社幹部のウォン・リーは、自らもアーマーに巻き込み、アクションでの実績も両派。

闘いの記録

迷途渾沌く宇宙と地上とを駆け抜けたガンダム Mk-II。歴史のうねりの只中で、刻の涙を見つめ続けてきたその機体は、やがてパイロットたちの顔を背負って、新たな時代の先駆者となっていく……。

BATTLE CHRONOLOGY

宇宙世纪
0083年12月4日 ティータンズ結成

0084年 ガンダム Mk-IIの開発着手

0085年7月31日 30パンチ事件起る
ティータンズ、黒魔晄色の黒いサイド1の
コロニー住民、GGガスで虐殺

0087年 ガンダム Mk-IIの試験運用開始

3月2日 エゥーゴ出陣、地球人カミース・
ビダンの命をもと、
グリーン・オアシスより
ガンダム Mk-IIを強奪

5月11日 エゥーゴ、地球連邦軍の
ジャブロー基地を奪取

6月 ティータンズ、ニューコーンコンを襲撃
サイコ・ガンダム、実戦参加

8月17日 エゥーゴのフォラー高射、奪取される

9月 エゥーゴ、Ζガンダムと
Gティータンサルを実戦配備

10月12日 ハマーン・カーン率いるアクシズ、
地獄魔に撃退

11月2日 エゥーゴ、キリマンジャロ基地を奪取

18日 エゥーゴ、ダカルの連邦国会を占拠
シャッタ、ティータンズ初の実戦を行う

0088年1月25日 ティータンズ強奪ジャミトフ・
ハイマン、駆逐される
木星エウルギー島の長、
シリッコがティータンズを率いる

2月2日 エゥーゴ、メルシューローム作戦にて
ティータンズのコロニー、レーヴーを奪取

22日 グリップスを襲ひ、エゥーゴ、アクシズ、
ティータンズによる三つの艦隊戦を行う

エゥーゴのコロニー、レーヴー一帯に
おりティータンズが、爆撃
エゥーゴも戦死の大半を喪失
ガンダム Mk-IIを倒す
パイロットのエマ・シン死亡
ティータンズ、崩壊

28日 アクシズのハマーン・カーン、
ジオン連邦を襲撃（ネオ・ジオン誕生）
第1次ネオ・ジオン戦争、勃発

8月1日 ネオ・ジオン本拠、地獄魔攻

0089年1月17日 ハマーン・カーン戦死
エゥーゴ、ネオ・ジオンを討伐
第1次ネオ・ジオン戦争、終結

BATTLE DOCUMENT 01

RECORD

TIME: UC-0087.3.2
PLACE: サイト / グリーン・オアシス
ENEMY: ティータンズ Gガンダム Mk-II
パイロット: カリコン・シザリ

衝撃! Mk-II vs Mk-II



カミースは自分で
を駆使したM-Pを
駆使し、さらには
カリコンの2号
機を不意打ち。



カリコンをコクピットから博
ろすと、エゥーゴのM5小隊と
もに機体を撃墜し逃した。

強奪された Mk-II は
エゥーゴの主力に…

BATTLE DOCUMENT 02

RECORD
TIME: UC-0087.6
PLACE: ニュー・ポーコン
ENEMY: ティータンズ Gサイコ・ガンダム
パイロット: フォウ・ムラサメ

肉薄! サイコ・ガンダム



ニーコーンに埋れたサイコ・ガンダムは、
不安定なフォクの心そのままで暴走する。



桁外れの巨体が Mk-II に迫る

ジャブロー攻撃の後、カラムに合流したMk-IIを、巨大M.S.
サイコ・ガンダムが追撃。パイロットの強化人間、フォウ・ム
ラサメと心通わせるカミースは、単身脱出を試みるが……



RECORD

TIME : UC.0086.2.22

PLACE : タイターンズ・宇宙戦域リップス2近傍
ENEMY : タイターンズMS6バラス・アテネ
パイロットはレコ・ロンド

グリップス2のコロニー・レーザーを手にする陣営が、この戦いの勝者となる……。エウゴ、ティーンズ、アクシス、三つ巴の戦いとなったグリップス戦没は、ついに最終局面を迎えるようとしていた。その最前線で、エマ・シーン中尉の率いるMk-IIも、電子掃討の活躍を見せる。敵はティターンズのハンブロビ、そして最新機バラス・アテネ。量射前撃になりながらも、分の重い戦いに勝利を収めるMk-IIだったが、その代價は余りに大きかった。



PILOT

数奇な運命を共にした多くの戦士たち

機体カラーと所属陣営を変え、グリップス戦没と第1次ネオ・ゾイオン戦争という2つの戦いを駆け抜けたガンドムMk-II。それだけに、本場は近代ガンドムのなかでも、最も多くのパイロットに乗り継がれている。

まずはティターンズ所属の「黒いカンダム」としては、ジェリド・メサ、カクイ・コン、カクーラー、エマ・シーンの軒並が、テスト・バーチャルを経て、ここにジェリドに奪われたMk-IIを駆り回す、因縁深い人生を送っている。

一方、自らの良心からティターンズを離反し、3機のMk-IIのうち1機をエウゴにもたらしたエマもまた、Mk-IIの歴奇な運命を象徴するパイロットたるう。エウゴが所属となったMk-IIは、当初カニュー・ビダンの乗機だったが、彼がZガンダムに乗り換えて以降本機を受領カニ・コバシのGディフェンサーと連携し、主戦力の一員として多大な効果を挙げている。その彼女が、エウゴを裏切ってティターンズについたレコ・ロンドと倒し戦うるよう死んだのは、皮肉と言はざるを得ない。

エマ死き後のMk-IIは、当初はアガマ、のちにはネエル・アガマの所属として第1次ネオ・ゾイオン戦争に参加。主として元民間人の少女エリ・ピアンニによって操縦され、メカライダーバーと共に「カンドム・チーム」の一員として活躍した

エマ機、最期の出撃



傷だらけで戦い抜いた

コロニー・レーザー攻防戦



そこまでみえたの
はかつて断念したう
るがまだだら



苦い勝利を収めるMk-IIだったが、敵機の爆発により大掛かりも負傷し、捕らえられた。

ジェリド・メサ



PROFILE

メモルの冒人を経て生まれた24歳。才覚溢れるパイロットたが、身勝手なエゴで戦闘からモードを起しきし、確執を引きずることに

エマ・シーン



PROFILE

地球の巨匠人会場の出身。24歳。ティーンズの前哨としてミーナー、バーチャルを経て、元民間の少女エリ・ピアンニによって操縦され、メカライダーバーと共に「カンドム・チーム」の一員として活躍した

THE RIVAL

開発技術と実戦の両面で、多くのライバル後が火花を散らす

RMS-099 (AE社内型式番号 MSA-009) リック・ディアス

SPEC

頭部高 / 18.5m (全高 / 18.7m)

全幅 / 22.5m

全機重量 / 54.7t

ジオフレーザー出力 / 1,037BHP

スマートアーム / 4,000kg

セイバー武器重量 / 11,500kg

脚部付属 / ガンダリウム合金

武器 / ライフル・ゴーランズ

ピーム・サード

ピーム・セイバーピーム

クレイ・バズ・カ

ピーム・ライフル



ゼオン系の技術を用いた機体。高性能の第2世代MSで、ムーバブル・フレームと同様のプロット・ビルトアップ構造を持つが、フレーム性能はMk-IIに及ばなかった。

RMS-108 (AE社内型式番号 MSA-002) マラサイ

SPEC

頭部高 / 17.5m (全高 / 20.3m)

全幅 / 23.1m

全機重量 / 59.4t

ジオフレーザー出力 / 1,790BHP

スマートアーム / 4,500kg

セイバー武器重量 / 10,900kg

脚部付属 / ガンダリウム合金

武器 / ピーム・セイバーピーム

ピーム・ライフル

シールド



Mk-IIを失ったティターンズに、AE社が無償供与した機体。第2世代機だが、Mk-IIには苦難を強いられ、結果としてMk-IIの基本設計の優秀さを證明することになった。

地上に降りたガンダム

怒濤の進撃で地球に侵攻したジオン公国軍たか地球連邦地上軍には、僅かな数で決死の抗戦を続けるガンダム、タイプMSの姿があった。歴史の狭間に隠れた活躍をみせた、初の量産型ガンダムの真実に迫る。

構成・文 河島正晃
高鶴規之

一年戦争における 地球連邦地上軍の苦闘

誰も予想しえなかつた、歴史の驚異 U.C.0079年頭に幕を開けた一年戦争の開戦当初、ジオン公国軍の電撃戦は、まさにそう呼ぶに相応しいものたつた。一週間戦争とルウム戦役において、ミノフスキ一級少佐の高確度散布と新兵器MSによる接近戦によって、連邦軍艦隊に壊滅的の打撃を与えたからである。

だがMSの有用性は、宇宙においてのみ發揮されたわけではない。前述の2回戦を経た前戦体約て、事実上の降伏を引き出せなかつたジオンは、そのまま地陸侵攻作戦を実行。三国軍MSは連邦軍の地・兵を次々と殲滅し、停か3ヶ月で地球のほぼ半分を制圧したのである。

とはいえた連邦軍も、この惨状を呑んで呻めいたわけではない。敵のMSに抗し出る唯一の兵器、即ち自製MSの開発に邁進していたのである。すでにのちの主力機 RGM-79シムは頑丈且つ戦闘力で、いたがた、地上軍には創の猜手もない。そこで連邦軍省は、シムの派生機であつたRX-78ガンダムの開発着手を基に、地上用MSの急造に着手。ガンダムの簡易型であるジムとは異なり、ルナ・チタニウム合金製の装甲をはじめとする高い性能を備えた機体を独自開発する。この機体は RGM-79[G]陸戦型ジムの名を冠され、10月からの実戦配備が決まった。

だがその生産性は低く、絶対数不足はいかんともしかたないと思われた。

陸戦型ジム

地上用に整備された連邦軍初の量産MS、性能は優秀だが、ムとのハーフの互換性は少ない。

RX-78 の部品を用いた 『間に合わせ』の高性能機

一方、連邦軍の戦略開発局には、試作されたRX-78ガンダムの余剰部品が豊富に存在していた。フランク・J・フーモデルとして開発されたガンダムにおいては、各部品の適合基準が極めて厳しく、充分使用に耐えるか検査には手を出さなかつた部品が大量に発生してしまつたのである。連邦省はこれに目をつけ、開発中たつた陸戦型ジムの一部に搭載。MSの数不足を少しでも補うとともに、それらを陸戦型ジムより優秀なエース向けの機体として再生する。この結果生まれたのが、MS史上でも極めて珍しい『量産型ガンダム』のひとつ、RX-79[G]陸戦型ガンダムである。陸戦型ジムと生産ラインを共有するこの機体は、急ピッチで生産され、10数機がローライド・東南アジア戦線をはじめとする各地域に配備された。



運用面ではホバー・バーと連携、燃費能力を補う

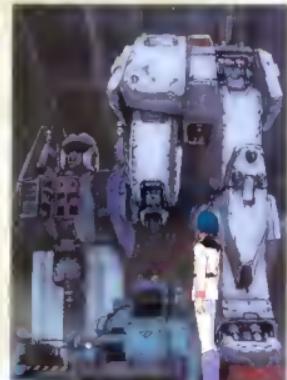
厳しい局地戦の果てに 役目を終えたガンダム

かくして実戦投入された陸戦型ガンダムは、すぐさまその「素性の良さ」を証明する。余剰部品による信頼性のバラつきを抑えるため、大半の機体にはリミッターが設けられたにもかかわらず、その戦闘能力はジムやザクの比ではなかった。陸戦型ジムに比べ、遙かに高出力なビーム兵器の運用も可能なジネレーターを有し、さらに緊急時にはリミッターを外してのフルパワー駆動も可能。この点陸戦においては、RX-78と同等(?)とまで、われたその高性能で、ジム頃までの地上戦場における救世主となつたのだ。

たがそつ、一方、陸戦型ガンダムの名前は後に



残ることがなかつた。そもそもが『間に合わせ』の機体だった本機と陸戦型ジムの設計は、のちの機体に一切継承されなかつたからである。連邦軍の戦いがMSの物量戦へとシフトするなか、徒歩となって消えた陸戦型ガンダム。その活躍は、本機を受領する米将軍に沿した。握りのパイロットたちの記憶にだけ、鮮明に焼き付けられているので



出自が出来だけに、準備部品の慢性的不足も問題で修理や改修は現地の整備任せというのが多かった



原形を留めほどの現地改修で使い続けた例もある

RX-79(G) GUNDAM GROUND TYPE



SPEC

溝道高: 500m

全高重量: 1,000t

主武器: 1. ローラークラスター 600Kg

2. ローラークラスター 300Kg

3. ローラークラスター 100Kg

4. ローラークラスター 50Kg

5. ローラークラスター 25Kg

6. ローラークラスター 12.5Kg

7. ローラークラスター 6.25Kg

8. ローラークラスター 3.125Kg

9. ローラークラスター 1.5625Kg

10. ローラークラスター 0.78125Kg

11. ローラークラスター 0.390625Kg

12. ローラークラスター 0.1953125Kg

13. ローラークラスター 0.09765625Kg

14. ローラークラスター 0.048828125Kg

15. ローラークラスター 0.0244140625Kg

16. ローラークラスター 0.01220703125Kg

17. ローラークラスター 0.006103515625Kg

18. ローラークラスター 0.0030517578125Kg

19. ローラークラスター 0.00152587890625Kg

20. ローラークラスター 0.000762939453125Kg

21. ローラークラスター 0.0003814697265625Kg

22. ローラークラスター 0.00019073486328125Kg

23. ローラークラスター 0.000095367431640625Kg

24. ローラークラスター 0.0000476837158203125Kg

25. ローラークラスター 0.00002384185791015625Kg

26. ローラークラスター 0.000011920928955078125Kg

27. ローラークラスター 0.0000059604644775390625Kg

28. ローラークラスター 0.00000298023223876953125Kg

29. ローラークラスター 0.000001490116119384765625Kg

30. ローラークラスター 0.0000007450580596923828125Kg

31. ローラークラスター 0.0000003725290298461910253125Kg

32. ローラークラスター 0.00000018626451492309551265625Kg

33. ローラークラスター 0.000000093132257461547756328125Kg

34. ローラークラスター 0.000000046566128730773878140625Kg

35. ローラークラスター 0.000000023283064365386939571875Kg

36. ローラークラスター 0.0000000116415321826934697859375Kg

37. ローラークラスター 0.00000000582076609134673489296875Kg

38. ローラークラスター 0.000000002910383045673367446484375Kg

39. ローラークラスター 0.0000000014551915228366837232421875Kg

40. ローラークラスター 0.00000000072759576141833486162109375Kg

41. ローラークラスター 0.000000000363797880709167430810546875Kg

42. ローラークラスター 0.0000000001818989403545837154052734375Kg

43. ローラークラスター 0.0000000000909494701772918577026368125Kg

44. ローラークラスター 0.00000000004547473508864592885131846875Kg

45. ローラークラスター 0.000000000022737367544322964475659234375Kg

46. ローラークラスター 0.0000000000113686837721614822378296171875Kg

47. ローラークラスター 0.00000000000568434188608074111891488828125Kg

48. ローラークラスター 0.000000000002842170943040370559457444140625Kg

49. ローラークラスター 0.0000000000014210854715201852797287220703125Kg

50. ローラークラスター 0.00000000000071054273576009263986436103515625Kg

51. ローラークラスター 0.000000000000355271367880046319932180517578125Kg

52. ローラークラスター 0.000000000000177635683940023159966090258984375Kg

53. ローラークラスター 0.0000000000000888178419700115799830451294921875Kg

54. ローラークラスター 0.00000000000004440892098500578999152256474753125Kg

55. ローラークラスター 0.000000000000022204460492502894995761282373046875Kg

56. ローラークラスター 0.0000000000000111022302462514474978806418865234375Kg

57. ローラークラスター 0.00000000000000555111512312572374989032094326171875Kg

58. ローラークラスター 0.00000000000000277555756156286187494516047163875Kg

59. ローラークラスター 0.000000000000001387778780781430937472580235819375Kg

60. ローラークラスター 0.000000000000000693889390390715468736290117909375Kg

61. ローラークラスター 0.0000000000000003469446951953577343681495589546875Kg

62. ローラークラスター 0.00000000000000017347234759767886718407477947753125Kg

63. ローラークラスター 0.00000000000000008673617379883943359203738973875Kg

64. ローラークラスター 0.000000000000000043368086899419716796018694869375Kg

65. ローラークラスター 0.0000000000000000216840434497098583980093474346875Kg

66. ローラークラスター 0.0000000000000000108420217248549291990046737220703125Kg

67. ローラークラスター 0.00000000000000005421010862242749599500233861103515625Kg

68. ローラークラスター 0.0000000000000000271050543112137479975011693055234375Kg

69. ローラークラスター 0.000000000000000013552527155606873998750584952765625Kg

70. ローラークラスター 0.000000000000000006776263577803436999375274773828125Kg

71. ローラークラスター 0.000000000000000003388131788901718499687638889140625Kg

72. ローラークラスター 0.0000000000000000016940658944508592498343194445234375Kg

73. ローラークラスター 0.0000000000000000008470329472254296249171597222703125Kg

74. ローラークラスター 0.000000000000000000423516473612714812458579861133515625Kg

75. ローラークラスター 0.000000000000000000211758236806357406229289930566753125Kg

76. ローラークラスター 0.000000000000000000105879118403178703114644965283375Kg

77. ローラークラスター 0.000000000000000000052939559201589351557322477641734375Kg

78. ローラークラスター 0.00000000000000000002646977960079467577866123832086875Kg

79. ローラークラスター 0.000000000000000000013234889800397337889330619160434375Kg

80. ローラークラスター 0.00000000000000000000661744490019866894466530958021703125Kg

81. ローラークラスター 0.000000000000000000003308722450099334472332654790108515625Kg

82. ローラークラスター 0.00000000000000000000165436122500466723616632739505428125Kg

83. ローラークラスター 0.000000000000000000000827180612500233418083163697527140625Kg

84. ローラークラスター 0.0000000000000000000004135903062500116709045818487635703125Kg

85. ローラークラスター 0.00000000000000000000020679515312500058545479242438178515625Kg

86. ローラークラスター 0.0000000000000000000001033975765625000292727487121909928125Kg

87. ローラークラスター 0.00000000000000000000005169878828125000146363743560954940625Kg

88. ローラークラスター 0.000000000000000000000025849394140625000731818717804774740625Kg

89. ローラークラスター 0.0000000000000000000000129246970703125003659093589023873703125Kg

90. ローラークラスター 0.0000000000000000000000064623485351562500182954679451888515625Kg

91. ローラークラスター 0.00000000000000000000000323117426757812500091477349725444740625Kg

92. ローラークラスター 0.0000000000000000000000016155871337890625000457388698772234375Kg

93. ローラークラスター 0.000000000000000000000000807793566889031250002286943493861703125Kg

94. ローラークラスター 0.0000000000000000000000004038967834445156250001143471969308515625Kg

95. ローラークラスター 0.000000000000000000000000201948391722257812500005717359846540625Kg

96. ローラークラスター 0.00000000000000000000000010097419586112890625000028586799232740625Kg

97. ローラークラスター 0.0000000000000000000000000504870979305644531250000142933996163515625Kg

98. ローラークラスター 0.0000000000000000000000000252435489652822275781250000071467498078125Kg

99. ローラークラスター 0.0000000000000000000000000126217744826411139062500000357337490390625Kg

100. ローラークラスター 0.00000000000000000000000000631088724132055692343750000017866874515625Kg

101. ローラークラスター 0.000000000000000000000000003155443620660277961875000000089334374740625Kg

102. ローラークラスター 0.0000000000000000000000000015777218103301389843750000000446671873703125Kg

103. ローラークラスター 0.000000000000000000000000000788860905165069492187500000002233359365625Kg

104. ローラークラスター 0.0000000000000000000000000003944304525825347460625000000011166796828125Kg

105. ローラークラスター 0.0000000000000000000000000001972152262912673730312500000005583398415625Kg

106. ローラークラスター 0.00000000000000000000000000009860761314563368650625000000027916992078125Kg

107. ローラークラスター 0.000000000000000000000000000049303806572816843253125000000139584960390625Kg

108. ローラークラスター 0.0000000000000000000000000000246519032864084216265625000000697924801953125Kg

109. ローラークラスター 0.0000000000000000000000000000123259516432042108131250000003489624009765625Kg

110. ローラークラスター 0.000000000000000000000000000006162975821602105056562500000017448120048828125Kg

111. ローラークラスター 0.0000000000000000000000000000030814879108010525282812500000087240600244140625Kg

112. ローラークラスター 0.00000000000000000000000000000154074395540052626414062500000436203001220703125Kg

113. ローラークラスター 0.00000000000000000000000000000077037197770026313207031250000021810150060734375Kg

114. ローラークラスター 0.000000000000000000000000000000385185988850131566031250000001090507503035703125Kg

115. ローラークラスター 0.0000000000000000000000000000001925929944250657830156250000005452537515178515625Kg

116. ローラークラスター 0.0000000000000000000000000000000962964972125328915078125000000272626875758928125Kg

117. ローラークラスター 0.00000000000000000000000000000004814824860626644575390625000000136313437507234375Kg

118. ローラークラスター 0.0000000000000000000000000000000240741243031332228765625000000006815671875361703125Kg

119. ローラークラスター 0.000000000000000000000000000000012037062151566611438281250000000340783593751805703125Kg

120. ローラークラスター 0.00000000000000000000000000000000601853107578330571914062500000017039457187590178515625Kg

121. ローラークラスター 0.000000000000000000000000000000003009265537891652859578125000000085197285753754940625Kg

122. ローラークラスター 0.0000000000000000000000000000000015046327689458264297812500000000425986428751874740625Kg

123. ローラークラスター 0.00000000000000000000000000000000075231638447291321489062500000002129932143759373703125Kg

124. ローラークラスター 0.000000000000000000000000000000000376158192236456607445625000000010649660718754868750703125Kg

125. ローラークラスター 0.000000000000000000000000000000000188079096118228303722812500000005324830359375243437503515625Kg

126. ローラークラスター 0.00000000000000000000000000000000009403954805911415186140625000000266241517937512173703125Kg

127. ローラークラスター 0.000000000000000000000000000000000047019774029557075930781250000001331207589375608687501753125Kg

陸戦型ガンダムの設計思想

地上のみでの運用を前提としたガンダム、RX-79(G)には、コア・ブロック・システムの不採用以外にも、数多くの仕様変更が施されていた。

重力下戦に合わせたコクピット設計

RX-78とは異なり、胸部中央に燃えられたコクピット。コア・プロックの停止により、機体胸部の剛性は大きく上がっている。

RX-78-2——連邦宇宙軍MSは無重力空間ばかりでなく、スペース・コロニー内部などの重力下でも運用することが求められるため、専用機としての性格をもつてゐることは言うまでもない。

しかしR79[G]—通郷地面上M5が陸上駆以外の作戦に投入されることを原則としてありないので、同じ“M5”を賣つてもその在り様は大きさ、真になつて、搭載されている電子機器が宇宙軍機のアビオニクス（新空機搭載電子機器）に対し、ヘトロクス（軍事搭載電子機器）と呼ばれることからも、それが理解できるだろう（この時代には、モビロニクス—Mobiltronics：M5搭載電子機器（という用語は、存在していない）。

また、宇宙軍は地上軍へのソースコードの提供を渋ったため、機体制御用にはわざわざ新規に開発したソフトが使用された。このようにRX-79[G]はRX-78-2を基礎に覆きつつも、地上軍独自の技術によって構成された機体なのである。

地球環境に合わせた装備

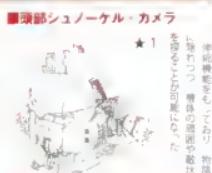
陸戦型ガンダムは多様な装備を持ち、重力下での運用に関して書かれていた。その対応力は陸戦機を「RV-79ホビートラム」と呼んでいた。

地球という多様性をもつ環境で運用するため、RX-78[G]には原形機であるX-78を上回る、地上軍M5独自の装備が開発された。RX-78-2が、何の装備も追加装備でもなく砂漠戦をこなしたことを考えると、スペックが進行したと受け取られかねない。だがこの時代において、簡単な防砂装置を追加するだけで、砂漠を戦場に普段と変わらぬ性能を発揮した。実戦機としては十二分に高い性能をもつといったと言ふだがう。

■防砂シーリング



可動部分に砂糖が入りこまないように製作された。キャンバス地のカバー。



空挺作戦に用いる制動ロケ・ト付きのハ・
シュートパック。装備コ・テナも兼ねる

出力制限による熱核反応炉の安全性確保

余剰バーツの使用による機体ごとの性能のばらつきを抑えるとともに、地上での安全な運用のため、リミッターが受けられを

戦後用M5の実用化に当たり、地盤進歩の技術陣から最も心を砕いたのは、熱反応炉の安全性の確保についてたったM5Lを搭載する以上、運転は望むべくなかつたが、被弾した場合、運転反応炉にて核爆発が容積に起こらぬ設計がまたされたのである。運転反応炉は、核爆発時に火力制限を設けることで対処した。もしも、核爆発が誤さればはてでもない被害が生じるため、運転は許さざるを得なかつたのである。



出力制限の解除は可能だが、その場合は1カ所

現地部隊による改修

装甲形状が変更され、固定武装も交換。さらには「顔」までもが差し替えに。なぜこのような改造が行われたのか。

RX-79[G]は補充部品の確保が困難なため、損傷時にはari合わせの部品を用いた修理を要請した。

そのもうとも顧み難い例はEZBと呼ばれる、
ショ...・アマダ少尉の乗機たう より耐
撃性の高い形状の装甲を構い、隣にはライ
フル使用時の降着姿勢を安定させるスハイ
クスを追加、胸部の固定武装も変更してい
る また、弾か飛び込むのを防ぐため、装
甲表面の凹凸や機体前面に空いたエアイン
テークを徹底的にカットするなど 使用環
境に即した改修が施されている



Weapons of RX-79(G)

地上での戦闘は、さまざまな地形条件の影響を受ける。また、長距離から中距離戦闘、格闘戦までが行われ、そのすべてに対応した兵装が必要だった。

短・近距離兵装

M5かミノフスキーパーツを用いた電子素融の無効化によって考案された以外、自爆による戦闘への対応を求めるものは、至極当然のことだった。開発時に想定された戦闘が宇宙戦闘艦や乗組してなかったシオン公国軍と違い、すでにサクという戦が存在していた地球連邦軍の場合は、最初からM5を装備を志願に置いていた段階で、M5の開発において、これほど大きなアドバイスとなった。

地球連邦軍のM5の主兵装、ビーム・フレーガンやミシンカンガ、そしてシオン公国軍のサク・ミシンカンガは、同時の兵器より小型で取り回しの良いのは、敵M5との接近戦を展開することを前提としていたからにほかならない。確かに威力の大きな兵装は魅力的だが、敵に潜りに入りこんだ場合、大型であるがゆえに機動な対応はつらい。それを知っていた連邦軍は、集団戦により火力不足を補う謀略を進めたのだ。



100mm マシンガン

口笛を吹くようにして連射性を高めた、地上軍M5の主兵装。この上位でも威力はサクのものに匹敵した。

ビーム・ライフル

一撃必殺を狙って開発された。威力は大きいが、高価格がネックとなり、少數生産に止まった。

胸部パルカン砲とマルチ・ランチャー

EzB の 35mm パルカン砲

パルカン砲は胸部から頭部へ一歩進場所を変更され、広い射程をもつことになった。

EzB の 12.7mm パルカン砲

独立したセンターを備え、回転式にして使い勝手を改善した歩兵用兵器。武器や弾薬や牽引車にも使用する。胸部中央に設置。

中・長距離兵装

ミノフスキーパーツが散布された空間ではほとんどの電波が吸収され、データリンクによる情報の共有の作戦行動の前提に置いていた地球連邦軍は、開拓戦闘の戦いで完全な麻痺戦術に陥り、混乱な打撃を被った。これは宇宙だけでなく、頗る地球での戦いでいても同様だった。

ある種の電波を捕捉する、つまり電子機材による電波や原爆を無効化するミノフスキーパーツは、M5の運用にいかせないか。一方で陸戦の剣でもあった、集団と叫んでいたのはシオン公国軍側も同様で、さらには戦からの原爆は撲滅できるものの、電波を阻害する限りで戦闘に進んでいたことは明白であり、戦術レベルでどちらもかく、作戦レベルにおいては、自己の位置を暴露してしまうという致命的な弱點を招いてしまったのである。

結果、ミノフスキーパーツが散布されない、従来の渾身兵器を用いた長距離戦闘が両軍に頻発することになった。シオン公国軍M5に比べ、連邦軍M5の兵装の中・長距離射程をもつものは、純粋に続く、さらなる戦場環境の変化に対応しようと思つたためなのだ。

180mm キャノン



ロケット・ランチャー



ミサイル・ランチャー

2発のミサイルをもつ立派なミサイル・ランチャーを、3基装備している。最も早くした後は、ブロックを交換してミサイルを補充する。



携行式シールド

取りつけ角度を調整できる回転式のマウントで、前部に取りつけるマウント部にはスイング式のアームがあり、腕の先にシールドを突き出すことができる。

シールド ★ 1



シールドは先端を使つての攻撃攻撃や、マシンガンを安堵させるための盾牆にもできる。

運搬機材

RX-79(G)の場合、発点から長距離出でての作戦行動も考慮されていたので、兵器と弾薬、そして物資を大量に収納可能な専用のコンテナが開発された。地上軍ならではの機材だ。

コンテナ



複数の兵兵を抱えて出でることで、最も寄らざる状況の対応が容易になった。

RX-79(G) 陸戦型ガンダム

闘いの記録

暑さと湿気、そして機界を奪う緑のジャングル。陸戦型ガンダムが配備された最前線のひとつは、MSにとってさえ過酷な東南アジアの戦場だった。終戦までの3ヶ月、この地で展開された激闘を追う。

BATTLE CHRONOLOGY

宇宙世纪

0079年1月3日

一年戦争勃発

4月1日 地球連邦軍、V作戦実施

8月16日 サイドFにて初のMS同士による戦闘

10月

ジオン公国軍、アラスラス開拓計画を発足

連邦地上軍、RX-79(G)を配備開始

第0M6小隊、ジオン公国軍のアラスラスと遭遇

連邦軍、アラスラス開拓基地の探索を開始

アラスラス、連邦軍第0M8小隊による待ち伏せ攻撃を受ける

11月7日

連邦軍、オデッサ作戦開始

連邦軍、アラスラス開拓基地を発見

歐州からアラスラス地図にかけのジオン爆撃力、資源へ向かう

30日

ジオン軍、連邦軍本拠地ジャプロ基地を攻撃するも、失敗

12月6日

連邦軍、アフリカ、北米にてジオン軍捕獲作戦を展開

連邦軍の砲撃攻撃中にアラスラスに記載ジオン軍、連邦軍とともに多数の犠牲の上に戦闘終了

24日

連邦軍、ソロモン軍事要塞攻撃作戦開始

31日

ジオン本拠地防衛ラインの裏、ア・ボア・クー陥落

0080年1月1日 一年戦争終結



上空から襲い降りた、異形の機体。MSを思わせる半面の動きが、0B小隊の面々を威圧する。

BATTLE DOCUMENT 01

RECORD
TIME: 0.0079.10
PLACE: 東南アジア戦場
ENEMY: ジオン軍MS

密林の戦い



巨体を緑の間に隠し、好機を持つガンダム。驚気に身を切れるような場面が過ぎる。

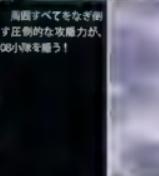
見詰まる心理戦



未だ気合がないアクを引き付けて攻撃！一瞬の判断が生死を分けた。

BATTLE DOCUMENT 02

RECORD
TIME: 0.0079.10
PLACE: 東南アジア戦場
ENEMY: ジオン軍MAアラスラスⅡ
パイロット: フィーネ・ウハリン



周囲すべてをなぎ倒す圧倒的な攻撃力が、0B小隊を驚かす！

巨大MAの脅威

西部エリ亞での作戦行動中、0B小隊の頭上を巨大な影がよぎる。それはジオンが爆撃中の新兵器、アラスラスの姿だった。圧倒的攻

撃力に、苦戦を強いられる3機のガンダム。全滅の危機をえまに、サンダース軍曹機が決死の突撃を試み、突破口を開く！



ジオンの秘密兵器を迎撃せよ！

「はサ・ダ・イ・スのリ
勇者だと思つたが、
ベルヌーイだらけだ



連携攻撃で驚き、早くも掌握に成功。

RECORD

TIME: U.C.0079.12

PLACE: ラ・トルゼ高地

ENEMY: ジアン軍 MS グフ・カスタム

パイロット: ノリス・パッカード

オデッサ作戦の勝利を受け、東南アジアの連邦軍も大規模反攻作戦を実施。遂に敵の秘密基地へ迫り、その攻略作戦を行うとしていた。08小隊にも、拠点攻撃用のガンタンク3機を護衛する任務がある。

だが敵のエース、ノリス・パッカード大佐は、自軍病院船の打ち上げを砲弾から守るために、グフ・カスタムで單機で出撃。08小隊の両エース、カレンとサンダースをも手玉に取り、瞬間に2機のガンタンクを血祭りにあげてしまった。残る1機を死守するためには、シローのE28は、最強の敵との一騎打ちに挑む！

無人の街で 兵士の魂が激突する

鬼神、グフ・カスタム



基地近傍の市街地で、激しくぶつかり合う戦闘。跳び交う戦弾がビル等、そして互いのシールドを削る。



渾身攻撃の一撃の隙をついて、ヒート・ワイヤーが（おもを抜いた）最強で行動不能に陥ったE28を、撃墜が戦う。



片腕を失いつつも再起動したE28は、ビーム・サーベルを手に突進！ 2つの機影が交錯する。

だがグフは、腕を寸断されたがらも最後のガンタンクを爆破。敵は倒したもの、戦いはE28の完勝に終わる。

PILOT

シロー・アマダ

部下を想い、敵の命を惜しんだ“アマちゃん”大佐

陸戦型カンドムを愛用したエースたちのうち、わけても名を馳せたのは、東南アジア紛争コジラ大隊の第08小隊長、シロー・アマダ少尉だろう。

シロー2出典の彼は、第一次戦争の間敗退後、シオン軍の毒ガス攻撃によって家族と友人に失った過去をもつ。それだけに、赴任当初はジオンへの懐懐を燃やしており、作戦にも果敢な攻撃を意図していた。ためには窮屈に踏むことでもあったものの、やがて卓識たっぷりで高い技術を揮ふ。エースの名に恥じない戦闘を誇るようになる。

たか戦いのさなが、アラスラを駆る道はハラドット、アイナ、サハリなど心を寄せた者は、やがて自身の懐懐と戦争の実戦に懸念を抱くようになる。もとより部下の命を第一に考え、吉凶等を“アマちゃん”と呼ぶされるほど優しい心の持ちもあつた彼である。やがて敵兵の命を守らうとするようになり、目前は愛するアイナとともに、勇ましい戦争の幕を開けて喜ぶを脱走。以降の進路はようとして知れない。

無論、その選択は軍人としてあるまじきものはある。不思議なことに部下たちは、それでいて（彼を）この行動を認めている。戦闘や戦死ではなく、実在ひとりの青年として部下の信頼を勝ち取つた“アマちゃん”。その理想主義を笑う者には、もやはじりりもなかつたのである。



PROFILE

● 艶としの魔女となった「アマランダ」。これまでの22年間、彼の人生は強烈で、ゲンコトをも幾方にける頭の大きさを示した。



● 争いの08小隊のM51ハイロット・カラン・リードン、アーヴィング・テリニア・サンダース、聖母、彼もまた、陸戦型カンドムを駆るエースである。

THE RIVAL

複数のガンダムタイプを手玉に取るほどの強さを見せた、強敵たち。

MS-07B-3 グフ・カスタム

SPEC

前進速度／13.29
半身重量／38.9t
全體重量／77.0t
ジオネリテークス・主力／1,100kW
スラスター推力／40,700kg
ビーム・サーベル半径／3,600mm
脚部射程／脚蹴り・スチール合金
武装／ヒート・ロッド
ヒート・ソード
ガトリング・シールド
3連装ガトリング砲
両腕を5連装フィンバー
ノルカンド砲に脚蹴り砲



白兵戦闘に開発されたMS-07B グフ・より柔軟な運用を目指して改修した機体。遠距離射撃用のガトリング・シールドをはじめ戦闘室などオプションを備えるが、防御力の低下などによって重いは嫌しくなっている。

アブサラス

ジオン軍が開発したM.A.ミノフスキ・グラフたるでの高高度・高速飛行能力による、連邦軍ジャブロー本部への爆撃攻撃を目的としていた。東南アジアでテスト中であり、開発段階に応じてアブサラス1～5までのバージョンが存在。最終形開発では主に削る戦闘のミガロア幕で連邦軍主力を壊滅させたが、E28の複数の攻撃によって撃破された。



いきなり急展開！ あの最凶ライバルが帰ってきた！

ガンダム狂四郎

作画ナンバー2 サイコ・ジオング

メカデザイン&イラスト
やまと虹一
原案 クラフト団

「シミュレー・ショーン、ゴー！」久しぶりのフラモシミューラーで、志士ガンダムを自在に操る狂四郎。さすがにだぜ、俺のラモモード！ なんだ、あの機体は？ 「いくぞ、ミスター狂四郎」聞こ覚えのある声が響く、「くっ！」不意打ちされた狂四郎の運命やいかに？！

轟の仲間

サッキー竹田

ミスター狂四郎
ガンプラ 30周年
記念して……
フレイを
楽しもうではないか！

志士ガンダム

サイコ・ジオング 作 サッキー竹田(42) フルスクラッチ

サッキー竹田が「ハーフェクト・ショック」を超えるべく、30年かけて作り上げた究極のガンダム。ボディはハーフェクト・ショックで、頭はショオングとサイコ・ガンダムのハイブリッド。右手の鎧はハーフェクト・ショックの剣をバーッアップしたもの。志士ガンダムが144分の1サイズのに対し、サッキーの金に糸目をつけないフルスクラッチの結果、60分の1サイズという。若干反対に入るスケールになってしまった

ネット回線を乗っ取って
フラモシミュレーションに
侵入したんじやろ

サッキー……
サイコ・ジオングのフレイナーは
やつだったのか？！

クラフトマン・マスター

京極四郎 (39)



イラスト 井一

第2回 最強の機体を求めて

オーガスタのガンダム

ヘルメットを外すと、長い髪が軽く、はりりと落ちた

遠すぎて怖いくらいよ

機体の乗り心地を技師に向かれたテスト・ハイロットの評価は辛かった

この機体の操縦系は従来のものとまったく異なる、

といふ。コクピットには、ハイロットの視点がそのままMSの視点であるかのような表示を行なう、全天周囲型モニター、ハイロットの操作に素早く見入られるよう、脚部の駆動部に施された、マクネット・コーティング、敏感すぎる、とそのテスト・ハイロットは感していた。果たして実戦で使われるのか、ハイロットの胸久次「てとこかな

そのような技術の上位にハイロットは不快の念を覚えたものの、自分ではこの機体を使いこなせない、といふ意図から質問した

実戦のところ、テスト結果は芳しいものではなかった。反応速度80%の剛性が目標だったにもかかわらず、30%程度に留まっていた。もともと、こ

の機体を調査する技師たちに「これは、予想できる結果ではある」

といつては、データーA専用機だ。あなたの脚は深めるか、ちいさな荷物を運びこむ

彼は、この機体を扱えるのは、種の生物だ、とまではいなかった

テスト・ハイロットを務めたクリスチーナ・ア・ケンニー中尉は背後を仰ぐ。テストは実際に機体を稼働させてのものではない。機体の頭部を胴体から切り離した状態でうしろミッショーンした、彼女の視線の先には、頭、があった

人間を想わせる、頭はやけに生々しく、垂れ下がる無数のケーブルが引ききつ切られた神経を連想させる

この機体、RX-78NT-1でレックスの開発が始まったのは、(0079年8月)、北米オーガスタ基地に

むけた。オーガスタ基地には兵士のメンタルヘルプを研究する部署が置かれ、研究の一環として、ニュータイプ概念の確認が行われていた。RX-78NT-1の開発拠点とされたのは、このためたとい

う

地球連邦軍のデーターA研究室は、オーガスタ側より大幅に遅れており、オーガスタ基地に立ち込めるデーターの思考により機体を操作する。サイド

ショットの技術の開発は不可能だった。そして開発陣は高い機体連携性によって、データーA・ハイロットの能力を引き出す力針を得た

たとえば、ホワイトヘアーズ隊のRX-78NT-1運用データは、かなり古く重複で、この機体ハイロット・アムロ・レイの反応速度に対応できなくなることを示したといふ。これを受け、開発陣は教育型コンピュータを改良。より高速な演算処理を実現したNICONシステムを完成。また、機体そのものの運動性を向上させるべくマクネット・コーティングの技術を確立した(これらの仕様はカノンジャー機において試験的導入され、RX-78NT-1に採用されている)

駆動系にはマクネット・コーティングが施され、運動性の向上によるハイロットの負荷を軽減する。コクピットにはリニアードモードや全天周囲型モニターが採用された。リニアードモードは脱出用カナルセルとしても機能することから、コア・ハイロット

システムは廢された)。

パイロットの視点をそのままMSの眼とする全く周囲型モニターは、オーガスタ基地でニュータイプのパイロットに最適な仕様として考案され、ケベックオンチック社の技術によって完成したといわれる。

オーガスタ基地が北米にあったことから、RX-78NT-1のこうした独自仕様の開発は、RGM-79ジムシステム軍機のOEM生産を請け負っていた地元周辺の企業の名が多く見受けられる。

基本設計は、RX-79[G]階下型ガンダムを、RX-78のサイド7でのトライアル、データを基に再設計したものもいわれる。RX-78NT-1が脚部に大容量のプロペラント、タンクを持ち、脚部ユニットをスラスター化したのはこのためだという。

開発陣がこのような仕様を採用した背景には、RX-78NT-1が防御力向上のため、追加装甲の装備が早めに要求から決定された点がある。

また、RX-78同様、バーツの品質管理が厳しかったため、RX-78NT-1には大量の余剰バーツが発生した。戦後、これらのバーツはRGM-79の高級機のため使用され、RGM-79Nジム・カスタムが開発されることになる。RGM-79Nはこのような名前から「オーガスタ系」と呼ばれる。

本機は地獄爆弾軍最初期のニュータイプ機として位置づけられるが、ニュータイプのパイロット、アムロ・レイへ引き渡される以前にジョン公卿と交戦、破壊された(一説によれば、この時点でRX-78NT-1は操縦系の不適合のため、RGM-79以下の性能しか発揮できなかつたともいわれる)。

しかし、開発史上における本機の生存は大きい。'80年代半ばの主戦機で採用される技術の幾つかが、未熟な状態ではあったものの、すでにこの機体に盛り込まれていたのだ。

F SWS計画という空論

一年戦争中期に完成したRX-78は、「当時としては群を抜く性能を有する機体であった。もっとも、実戦に投入されてみると幾つかの問題点が明らかになつた。

RX-78はコア・ブロック・システムを採用したこ

とで胴体部分が脆くなろう、人体の動きを再現するため、関節部分の多くが露出していた。

開発陣はこれらRX-78の「弱点」解消を検討し、

有効化後期に強化バーツとしてGバーツを完成している。

GバーツはRX-78を上半身のユニットであるAバーツ、コア・ファイターより変形したコア・ブロック、トト身のユニットであるBバーツの結合体と見なし、新たにGバーツAとGバーツBを組み合わせることで機能振幅を目標とするものだった。運用方法としては、長距離重爆撃機のGアーマー、支援用重爆撃機のGファイター、一撃離脱の戦闘機Gスカイ、支援用重戦車のGブルといった形態が想げられる。

Gバーツの運用は、RX-78の防御力、攻撃力を強化するだけではなく、移動力をも高めた。

M5そのものの移動力の低さは、開発初期より問題視されており、このことが母艦であるホワイトベースとの有機的運用の提案へと繋がっていた。さらに、重力下において作戦域まで母艦が移動できない場合には、輸送機としてガントリーが用意されていた。

しかし、ガントリーの効率性や攻撃力の低さ、移動速度の遅さは、MS運用上の機動性を劇的に改善するものではなかった。GバーツはRX-78を内包するGアーマー、GバーツA・Bのみで構成され、上部にRX-78を搭載可能なGファイターとして運用されることでこれらの問題を解決することができた。

Gバーツは分離合体によってRX-78をサポートするという、構造的な発想のものとして開発されたしかし、現実には作戦遂行地点でバーツを組み替えることが難しく、運用において課題を残した。

こうした結果に鑑み、開発陣はフルアーマー・オペレーションを提案することになった。

RX-78そのものの装甲バーツを付加し、防御力を向上させたいというものの、これは簡易装着型と呼称される方式で、RGM-80ジム・キャノンの脚部にも採用されている。

とはいえ、装甲の追加は機体重量の増加を意味し、必然的に運動性の低下を招くことになった。この点

*01 リニア・シートの完成にはアハイム・エレクトロニクス社の協力があつたともいわれる。同社社長、カウエル・J・カハナ(自らか)1979年11月18日、記者会見より「リニア・シートシステムはアナクシスしたところ、この駆逐として生産される。したがって、会員で活躍されたのはリニア・シートのモックアップです。全天周囲型モニターも写真のみであつた。全天周囲型モニターの完成を翌年とする説もある」

*02 RX-78の脚部にある「ふくらはぎ」状の駆動部は、脚部の筋肉が爆発的運動性を考慮され、壁面に下りる下垂運動部が危険を避れられることも開発している。しかし、実測データでは金属翼脚が爆発で壁面に下りており、RX-78NT-1の脚部コア・ノットをスラスター化する仕様が採用されることになった。もっとも、こうした大推力は通常の機体には不要と見なされ、そ

の後、しばらくの間、連邦軍のMSに採用されることはなかつた。

ちなみに、脚部反応炉の出力は通常機より推進効率と安定性が高められている。RX-78NT-1は他のRX-78系の機種同様、大容量内蔵で空気による冷却部を行なうが、換気口は二重構造した複合インテーク、ダクトの構造によつて、こうした逆風が実現したのである。もっとも、当初、タクト部分はこの仕様ではなかつたとされ、連邦軍における超小型脚部反応炉の技術革新から生じて生じているが、こうした変更が採用されたと見られる。この仕様は、重量機としては戦車、RGM-79Nジム・カスタムで採用された。

*03 RX-78NT-1はカシンドの重量を標準化した試験機としての側面を待つていたといわれる。カシンドの重量計画は「RX-81計画」といわれ、

ガンドムの機動性性能向上させた重量機としで位置づけられていた。RX-78NT-1には追加装甲が採用され、脚部にカットオフ・カンが内蔵されたのも、RX-81開発のためいたという。

RX-78NT-1に採用されたバーツの多くは既存の機体との互換性を持つない。しかし、そのバーツには後の機体で採用される傾向の多くが見受けられる。この点から、RX-78NT-1はガンドムの重量化を検索して開発されたといわれている。

*04 この点は公国軍側の分析に於いても早い段階から明しており、サイド7の戦闘機(スカイ・ホワイトペース)等を志したシャア・アズナブル少佐(当時は、脚下にRX-78の脚部を狙うよう指示した)という

*05 コア・ブロック・システム採用が決定され

を解消すべく、開発陣は増加装甲へ補助推進装置を設けるという発想の転換を行う。

さらに、当時、連邦軍内にはアムロ・レイ機の絶大な戦果を受け、少數精銳のMS部隊をRX-78で編成、単機で戦艦に匹敵する攻撃力を持たせる構想が存続していた。開発陣はフルアーマー・オペレーションにより、この構想を実現すべく、増加装甲へ固定兵装を組み込むという「攻防一体の『龍』」を計画した。

この計画はF SWS計画と呼称された。F SWSは Full armour System and Weapon System の略称といわれる。計画の発動は一年戦争後期から未だにかけてと見られている(一年戦争時は最高機密事項として一切の情報が秘匿されており、計画の一端が明かされたのは終戦後1年を経てからであつた)。

同計画において、開発陣はFA-78-1フルアーマー・ガンドムを完成したとされる。FA-78-1の姿は、一年戦争終結の1年後に刊行された、連邦軍の戦勝記念集で確認できる。ただし、ここに掲載されている写真はコンピュータのシミュレーション映像にすぎず、実機は存在しないという見込みが強い。

実際のところ、FA-78-1に続く型式番号の機体の開発も進められはしたものの、いずれも計画のみで頓挫している。

FA-78-2はハイビー・ガンドムの名称で呼ばれる。

簡易装着型の追加装甲を採用したことで、FA-78-1の重機は肥大化することになった。そこで、FA-78-2は各部を改造、あるいは新設計とし、直接重装甲型とした。これによりFA-78-2の全備重量はFA-78-1よりも軽減された。もちろん、この重軽であつてもなお、機動力の低下はいかんとも難いものであり、専用輸送機として中型戦闘爆撃機カシキヤーが提案されたという。

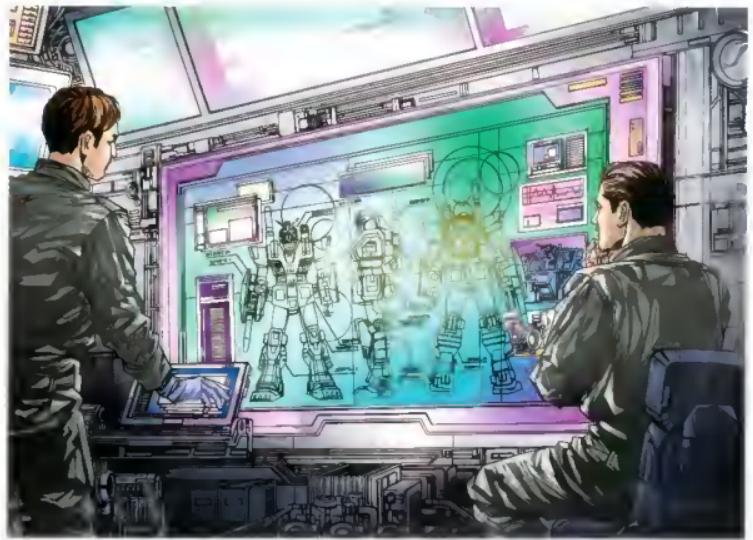
こうした問題点を踏まえ、続くFA-78-3フルアーマー-3号機では、当初から増加装甲の設置を考慮した設計をすることとなった。

ベースとなったRX-78 ガンドム7号機は増加装甲設置用のマウント・ラッチを各所に備え、重量の増加に対応すべく冗長のあるスラスター推力も

丸特點で考案されたとするが、サイド7でのトライアル終了時に開発に着手され、2ヶ月にも満たない期間で完成したとする説がある。

*06 重量下におけるMSの機動力の強化という問題はこの時既、公国軍においても重視されていて、MS-06 サクIIに比して重量だつたMS-07 グラフ重爆撃機、ダイ・YS上に搭載するといつて連邦軍がなされた。こじらしたMSの飛行を補助する機体はサブ・フラット・システムと称せざるを得ない。

Gファイター同様、RX-78のバーツを含むない予算のコア・ファイターとGバーツを組み合わせたGスカイ・イーザーは、RX-78を覗きの状態で飛行可能であり、車両のサブ・フラット・システムとして機能する。



えられた。ここへ増加装甲を追加し、FA 78 はどうねういたいた。

この計画において画期的と評されるのは、この FA 78-3 ヘセカンド・アーマーを装着するというアイディアである。セカンド・アーマー装着時の機体は HAF-A-78-3 重装組フルアーマー、ガンダムと呼称され、戦闘クラスの火力と MA に匹敵する装甲を持たせるよう、構型されていた。

FA 78-3 は、ベース機である RX 78-7 の基本フレームが製作された時点で終戦を迎えたといわれるが、たとえ、計画が進行していたとしても、当時の技術力では実現不可能な、FA 1 の空論であった MS を戦闘に堪能する能力とするという、公団からの要求は、あまりにも高ニードルだった。開発陣は実現の可能性をいったん確信しても、これに応える機械の開発案を提出しなければならなかった。

F S W S 計画実施時の実質的な成果として、当時我々が現在を把握できるのは、RX 78NTJ の追加装甲のみである。チョバム、アーマーと呼称されるこの装備は、FA 78-1 の試験案を受けて開発されたという（追加装甲は機動性を低下させることから、腕部ガントリンガ、ガンとともに、機体をアムロ・レイ引き離す段階では外される予定）であったといふ。

一年戦争期において防御力と攻撃力を同時に高める手段は少なかった。シオン公団がヒーム・ハリアーとして実用化に成功した「フィールド・シェレーター」の技術にても、終戦後、研究施設の接收によって、ようやく地球連邦軍にもたらされたのた

アナハイム・エレクトロニクス社の台頭

連邦軍は傑作機である ガンダム を完成してから、兵器として最強でも相手に入れた MS 技術という面においては大きく遅れていた。連邦軍の勝利は最強機 RGM 79 の性能ではなく、物量によって成し遂げられたものだった。公団軍の研究施設、開発施設から得た技術資料によって、開発者たちは公団軍の技術的先進性を目の当たりにすることになった（フィールド・シェレーター サイコミュ・システムといった技術は、こうしたなかで連邦軍へもたらされた。とりわけ、公団軍で進んでいたニットライフ研究は、連邦軍内部で強化人間研究へと発展していくことになる）。

連邦軍は早速、運用まで重視に入れた MS の総合技術を確立すべく、公団軍の技術を吸収する必要があった。

0080 年 1 月 1 日の終戦時にはオレン公団は其和政体へと移行し、シオン公団となっていた。終戦協定後には結ばれたグラナダ条約には、シオン公団の軍事的威力化による、及した損失に対する地球連邦政府はこれに基づき、公団軍をえた軍事産業についても、戦後、早い段階で解体する方針を探った。特に、MS の構成であるザクを開発した ZEON 社の解体には細心の注意が払われた。

地球連邦政府は ZEON 社の解体を、アナハイム・エレクトロニクス（以降 A E 社）への吸収合併

によって、アーマー最終的には 3 つの乗り落ちた。といふ。

第一乗車は武装として背部アーマー、運動式ローラー砲、右腕に装甲と一体の「2 機銃ビーム・ライフル」、第三乗車は「アーマー装備、乗組甲板による重量増大がもたらす機動力の低下を補うため、背部と面部に補助推進装置を設ける」と、いふもの。

第二乗車は、頭部に「スターを配した」、ヘッドを象形して一体化させると「もの」。MS として MS の実戦経験をしていて、アーマー、マークスターは緊急事態には駆け出しが可能であり、「「仕様は第、乗組の部隊にチーム、ライバーにおても運ばれていた。

第三乗車は、下半身そのものを、アーマー、4 門のビーム砲で固定すると「もの」。MS として MS の実戦経験をしていて、アーマー、マークスターは緊急事態には駆け出しが可能であり、「「仕様は第、乗組の部隊にチーム、ライバーにおても運ばれていた。

FA 78 とされたのは、「アーマーの頭、乗組であったといふ」。

これが行政指導以の力を持った。これで ZEON 社の技術者たちは半は強制的に A E 社へ連行されることとなってしまった。A E 社は彼らの受け入れ先として、月面のファン・プラウン市郊外にリハモア場を設立する（本拠地）。一年戦争時、MS 09 トムを開発した ZIMMAD 社の技術者たちも多くの A E 社の預かることとなってしまった。

A E 社は、一年戦争から知られる、大企業である。人はコロニー建設から、今は家電の製造まで扱う総合メーカーたる、最大の収益部門は宇宙製品の開発、生産であった。本社は地球に構えていたが、投資先は宇宙を中心としており、多数の研究施設、1 場、拠点を月面の月都郡やベース・コロニーに持つ。戦後より連邦軍の兵器受取部ではトップを占めていたと書けば、その規模の大きさが想像できよう。一年戦争終後においても、その影響力の大きさから、公団から A E 社の接收を控えたほどの企業である。

もっとも、連邦軍の MS 開発への貢献度はその規模に比して、決して高くはない。一年戦争時、A E 社の MS 開発における立役たる装置は、RGM 79 用のビーム・ライフルをプラッシュ社と提携して開発したことや、RGM 79 を OEM 生産した程度である。これは、A E 社の主要な取引先が連邦軍であり、連邦軍の MS 開発が受けがそのまま、社内の技術的ノウハウの乏しさに繋がった結果であるといわれている。

A E 社は ZEON 社を吸収合併することに積極的だったと見られているが、これは MS 開発、量産の技術を獲得しようという志向的的であつた。MS

FA-78-5は「」の「」
力を用いて、並んで「通常駆動」を実現する
システムである。最も見やすいものである
連邦としてのもの。なまらが選定された
HFA-78-3のほか、オースカーフィアードを用い
て艦隊に移動、敵機をカットのローラー・メ
テラボムによる各部隊連携を実現し、攻撃を行

作成機連携機「」を指す
FA-78-3が各部で通常駆動を、「」を指す
カットアーマーを装備した場合、「」
「」の面接機連携の形態などからFA-78-3はヒー
ム・キルを装備できない
「」、ストアーマーを指す。RX-78-7となる
て艦隊を行く。主兵舎はヒーム・ライフルと
ヒーム・リールとなる

「」は社発陣用機「」
を指す
リターナー定後、軍の指揮に基づき、試作0号機
を実現させ、その後、一年戦争時に開発された反
撃機連携二アーマーの戦闘力に着目して開
発機が「コア・ファイターをコア・ファスターII」と
して「機体」と「」、キンギー可能なものとしたほか
長距離と「」、ライフル、MPWIS、「ノンスチーリ
粒子干涉波束装置」など、本機にはさまざまな

実験的仕様が盛り込まれた。いた
RX-78GP00の型式番号と「」
愛称をもたらされたこの機体は、明確任務での試
験運用中、旧邦軍の機体に遭遇、戦闘となり
大破、多機能化した機体はハイロードへの負担
が大きいとの判断から、AE社開発機は「」
軍の指揮をもたらす機体は不可能であると結論
導き、開発が止めた。



兵器の登場は、新たな兵器市場の誕生を意味していたのだ

そうしたなかにあってAE社はRGM-79用ビーム・ライフル開発において提供していたプラスチックを軍に収めながら、ヒーム・サーフェルの火薬化に尽力したボウワク、RX-78NT1の開発に開拓し、RGM-79のOEM「牛丼」を行っていたケベックオンティック、コロラドサボ、ノーフォーク商業といった企業まで含み込んでいた。さらに、MSの出現によって高専戦闘機の受注額から経営難に陥っている航空機メーカーの名門、ハビック社まで傘下に収めていく。ZEONIC社の吸収合併は、この絶対一歩といえる企業活動だった。

わずか1年ほどの間に、AE社は地球最大規模のMS開発と半生産設備を揃える企業となった。附公団軍内の軍事開発企業が解体されたことで、実質的に、MSを開拓から量産まで可能な企業はAE社のみといつてよかった。

ガンダム開発計画

一年戦争の終結がそのまま、過去十数年にわたる軍事化時代の経験に繋がることはなかった。公団という敗戦組織との戦争に備えた軍備増強は、すでに軍事複合体の構築を生み出していた。軍部には軍事予算の割合がそのまま政治的影響力の低下に繋がると考える者も多かった。

彼らは、一年戦争で絶戦した連邦の軍事力再建の必要性を強く説き、公会に承認されることに成功する。一年戦争終結後、1981年10月に地球連邦議会で可決された「連邦軍再建計画」である。

終戦協定締結後も、これを認めず、組織的な抵抗運動を続ける旧邦軍勢力はアフリカや暗黒山脈を中心には存続していた。加えて、アステロイドベルトの小惑星基地アシズへ逃れた勢力の存続も

噂されていた。軍部の主張を議会が容れたのは、こうした情勢を鑑みてのものだった。

連邦軍再建計画の下、ジョン・コーエン中将は「」を実施する。試作機として新たな「」を開拓、技術的成果を量産機へとフィードバックすることで、MSの高性能化を図るという計画である。

軍はこの計画を民間企業との共同開発として進めることとした。

民間企業との共同開発という方針が採られた背景は、連邦軍内に軍内部で独自に開拓するものと新しい技術に限りたいという思想があったという。例えれば、旧邦軍より得た、サイコミュをはじめとするニュータイプ技術は軍事機能として秘匿し、電話の研究施設を設ける形での独自開拓が行われている。新技術の開拓に伴う技術転用、流通を民間のものと分離させることは、機密の保持からして絶対であった。しかし、軍の所有する施設での開拓はコストがかかるすぎる点も問題視されていた。大規模な軍事的立場からこそ選ばれなかつたものの、戦後の財政状況からすればMS作戦などの予算見直しは直面し難いものであった。従来の技術を基に新機種開拓を行なうならば、民間企業を起用し、雇用にあたっては民間の企業へ依存するべきであるというのが、この時代における判断であった。

反面、新兵器であるMSの技術が民間企業へ提供していくことを連邦軍は恐れていた。連邦政府は民間で開拓されるMSについて厳しい規制を設け、許可証によって開拓企業を統制して閉じこもらうとした。HUFIM-Sの共同開拓においては、一年戦争時にMS生産権を譲り受けた企業が優先された。これは、選定された共同開拓企業は政府の持つ許認可権によって生産権の権を保有しており、事实上、拒否することはできなかつたともいわれる。

連邦軍は新規「」開拓のパートナーとし

て、AE社に白羽の矢を立てた。前述の通り、AE社はMS開拓事業の吸収合併を繰り返していた。軍が高性能MSを開拓するにあたって、パートナーたるうる技術力と生産規模を持つ企業は、この会社をむいてほかになかった。

ガンドム開拓計画は従来技術を土台とするものではなかったが、この時点において、連邦軍は自ら手探りで開拓していったMS技術のみならず、旧公団軍の技術的成果をも獲得していた。ただし、両者の技術的融合は完全ではなかった。この計画は従来技術とはいいながらも、連邦軍と旧公団軍の技術を融合、発展させることができて開拓されているのだ。

そうした軽井もあって、軍は指標を提示するだけで、事実上、開拓はAE社主導で行われた。

軍のえた指標は、きわめて概念的なものであった。最強の機動兵器。必要な機能をすべて持つ兵器。こうした要求にAE社開拓陣が頭を悩ませたことは想像に難くな。

彼らは、一年戦争時に開拓されたMSを大別し、想定される運用範囲に応じて指標の試案を提出することにした。軍はこの方針を承認を認めた。結果的に運用用途の異なる1機種から4号機までの開拓が同時に進行した。

こうした規範の開拓を実質的に単独で行い得たのも、AE社が地球最大の企業であり、軍下に擁する技術者の数においても比較するものがない規模をもつたからであった。

試作機の完成、量産機の生産。計画の成就是AE社によるMS市場の独占につながる。計画に携わる者、誰もがそのように考えていたろう。だが、ひとつだけ異議がAE社を連邦軍のMS開拓の最前線から遠ざけた。

開拓された試作機のうち、2機までもが旧公団軍開拓、デラーズ・フリートの手にわたり、実戦で使用されるという事件が起つてしまつた。

GUNPLA ガンプラ30年の歩み Revelations

MGの登場から始まった 第2回 第2次ガンプラーム

ユーザーの要望に応えた ガンプラの登場

ガンプラ誕生10周年時にリリースされたHGシリーズは、当時の最新技術を用いて手軽に満足度の高い1/144スケールの干渉機カンタムを手にすることが出来るシリーズとして導入された以後、手軽に作ることが出来るという商品の考え方では通常商品にも波及し、ガンプラユーザーの拡大に繋がることとなる。

その反面、従来からのユーザーからは、簡単に作れるガンプラは負け気がない、大人が楽しめるガンプラが欲しいという欲求が現れはじめていた。そうした状況を受けて、94年にホビーシャンか主催したイベント「JAF・CON III」の会場では、ハンダイの川口亮氏とプロモテラーのMAX渡辺氏によく実機のガンプラを考えるというテーマでのトークショウが行われ、現在のユーザーが求めるガンプラ像が構築された。そして、95年のガンプラ誕生15周年に向けて、ガンプラのリファイン企画が決定することになる。

ガンプラの新シリーズでは、今までキット化されているMSを最新技術で内キット化することを前提に、HGシリーズとの差別化とスケールモ

ル的なディテールや解説をより精密に内蔵するため、1/100スケールとなることが決定。

各部の可動方式の見直しや、パーツ分割による色分けの内蔵、スナップフィットの導入、そしてMスへの新たな解説などが盛り込まれていくことになる。さらに、ホビーシャン誌上での「究極のガンプラを作る」という企画企画と連動し、ユーザーの声を取り入れながら商品化が現れていった。

その動いたガンプラのラインは、MGといふシリーズ名に決定し、第1弾アイテムとなるカンタムが95年7月19日にリリースされた。

究極のガンプラとして実現した 完全変形ギミック

その後MGは、HGシリーズにおいてキット化希望第1位でありながらも実現できなかった、サブロボを2脚して発売。ガンダム系のMSのみを商品化したHGシリーズとは異なるラインであることを、強く印象づけた。

そしてMスはシリーズ第3弾にして、新たなトライアルを行なう。それは、完全変形のミカダムのキット化であった。

アミスが担当時の1/100キットでMスでも変形するミカダムはリリースされていたが、MSとウェイブ・ライダー、両形態におけるプロポーションの違いを成し遂げてはいなかった。

そこでMGでは、カトキハシ氏をデザイナーとして起用し、変形の機構や形状を検討。求められていた完全変形と、MS、WR両形態でのプロポー

ンの内蔵を実現させ、96年にリリースされる

内部フレームの確立による さらなるMGの広がり

翌97年発売となったガンダム試作1号機では、通常形態とフルハニアン形態の2種類のキットをリリースするにあたって、内部フレーム構造に装甲パネルを取り付ける方式を採用。フレームと外装を分けることで、機体の可動域と表現性が格段にアップし、以降この方式はMスのスタンダードとなっていた。

99年になると、さらなるMGのバリエーション展開の可能性を示す、ガンダムNT1が登場。このキットは、フレームや一部外装パネルを共用することで、シム・カスタムやシム・カウエルといったバリエーション機の展開を可能とするデザインや新規が付加された。この方式には、一部金型の直用によってキットの開発費を抑えつつ、バリエーションが増やせるというメリットがあり、MGのもうひとつの技術的スタンダートとなつた。

こうして、シリーズ開始当初からユーザーの要望に応えるからスタートしたMスは、ガンプラの歴史の中で最大のラインナップを誇るシリーズとなり、満15年から15年の月を経た現在でも、新製品を生み出し軌跡にいるのである。

MG RX-78GP01 ガミダム試作1号機 97年8月発売

初の内部フレーム構造を採用したキット。内部フレームに外装を被せる手法によって、作りやすく可動範囲も広い。MGの方針性を確立した

MG MSZ-006 Ζガンダム 96年4月発売

カトキハシ氏が加わることでギミックやプロポーションが再構築され、完全変形を実現。そのスタイルノックは、これ以後のMスのデザイナーラインの礎に。

差し替えなしの
変形が可能とし、前空機的なプロポーションを再現したW形態。その後度々はMGの評議を高めることにつながった。



MG RX-78NT-1 ガンダム NT-1

99年10月発売
バリエーション展開を脱した基本設計とハニアン構造を採用。其通りで外装を変えていくバリエーションを強化していくといふMGの流れを作った。



MG RX-78-2 ガンダム

95年7月発売

もと本当にMSが存在したら、という想点でメカとしてのカンダムを想起し、スケールモデル的な演出を加えた大人が楽しめるカッコ良さで、従来ファンから大きな支持を得た。



MG MS-06F/J ザクII

95年11月発売

カノダム以上にキャラクターを重視していたサクII。精密なディテールをもち、地上用と宇宙用両方式で作ることができるなど、スケールモルモット的なアプローチが蘇り始めた。

HGUCに待望の3Dカンタム参戦！ついに、カンタムモードがヨンフリート！

「HGUCシリーズでミッションを抑えたい！」待望の22機種のリリースによって、HGUCはひとつの到達点を迎えた

1/144 スケール HGUC
ZZガンダム

価格 2415円 税込 発売元 タイ
好評発売中!

東Mへであるところ、さも、やうやく、運送車両の、運送車両の、

Digitized by srujanika@gmail.com



専用武器であるハイパー・ビーム・サーベル。高出力のビーム・サーベルの巨大爆弾を設定通り発射している。

〔文獻書名上〕

とことんプラモ主義

第2回 失敗もノウハウ。リカバーできるのがプラモデル

「失敗すると博だから、カンブラは賣うて作らね」という人がいる。最近増えている。バーサス切り出しで認明度を高め組み立てるだといふにしても、バーサスの確保や失敗いたりリスクはあるので、また失敗して挫折を…。それと、リスクの大きさがそのままのでは、100%の成功のガントラブはまだたぶんこれに比べると敗戦することもある今のガントラブに対し、ある程経営課題のあるあなたは来場の実務作習で想定失敗する、失敗といふリスクを回避しないで持ちながら想像、作習に身切れなくなるといふのも大嫌だとは思る。

国産プラモデルが誕生して五十余年になるが、それ以前のソリッドモデルと呼ば

れる木製模型がプラモデルに取って代わられた要因のひとつに、プラスチックの加工性の高さが挙げられる。製品製造によって、う面だけではなく消費者にとって、プラモデルは失敗した際に加工性の高さゆえにリカリバーすることができるという利点をもっている。増々な樹脂素材や補修材料、工具なども比較的容易に手に入るようになつた。それらの知識に加えてネット等で簡単に専門書を引き出すことが出来る。

私が初めてプラモデルに迷走したのは、小学生の頃。模型専門店という大人の聖域に足を踏み入れる勇気は当時なく、学校のそばの文房具店で車両セットを貰い、見よう見まねで黄でベタベタ塗ったのだが……「戦車は緑と茶色の迷彩」と

いう感じに迷ひただけでまつた結果は、馬鹿光沢でムラだらけの仕上がりで、毫もそのままの印象のようになってしまった。そこで、工具で使う筆を、水溶性で、筆先がガサガサにかぶつたことを、失敗した。そんな次の失敗は無知ゆえの失敗で、知識があれば困るまるの仕事だとは思う。しかし失敗しても、なぜ失敗するとなるかの、という要因を理解すれば、失敗は絶対にならないではないかと思う。わざと失敗する必要はないが、失敗を経験することによって失敗を理解する。失敗をしたければ必ずそれはいいの、ということを考えるようにする。そしてそれはノウハウとして自己のスキルに反映されるのである。



川口亮介 摘要集

ディ・ホビー事業部に勤務 モテラー集団ストリームヘースで M5 モデルのフルスクラ (子などで活躍 ガンブラ 面白 ブラモ狂歎) のアイディア提供や M.S.V. の企画なども手掛ける。現在も「カーモテラー」両方の立場から「ブラモ」を愛し嗜みている。



ノア、《形而下》、7冊、
～ある小説、脚本集4冊)



卷之三

形の表現の動機があり、名前等の口す——の字等、若葉舟の

GUNDAM

MS HISTORICA

全巻予定 各巻定価 650円(税別)、A4判定期
角図入りとし、オマケカラー36ページ

次号 Vol.3
7月24日発売

MSの限界を超えて、宇宙を、そして大空を自在に飛行する。新たな次元への飛躍を可能とする翼を持ったガンダムたちを、徹底的に紹介!

紹介機種 ▶ MSZ-006 ゼガンドム LM314V21 ヴィガンドム

特集

高みへの飛翔

—飛行型ガンダム—

好評発売中!

Vol.1 白の伝説

—初代ガンダム



Vol.4 8月24日発売予定

驚異の鬼神

—ニュータイプ専用ガンダム



紹介機種
RX-93 νガンダム
RX-78NT-1 ブレックス
MPX-006 サイコ・ガンダム
MPX-010 サイコ・ガンダム Mk-II

Vol.5 9月24日発売予定

宇宙を震わせる
脅威—重量級ガンダム



紹介機種
MSZ-010 ゼガンドム
RX-78GP01 ガンダム試作1号機
RX-78GP02A ガンダム試作2号機
RX-78GP03 ガンダム試作3号機

Vol.6 10月23日発売予定

Gを超える、
先へと進むもの

—進化系ガンダム



紹介機種
RX-0 ユニコーンガンダム
FB1 ガンダム FB1
LM312V04 ヴィガンドム

Contents

リ・ラン RX-78-2GII
伝説への道
長い長い歴史、初代MSの誕生
RX-78「ザ・GUNDAM」誕生の歴史

Gを継ぐもの

黒いGダム

RX-78NT-1 RX-78GP01
RX-78GP02A RX-78GP03

RX-78GP01 RX-78GP02A

地上に墜落したGダム

RX-78GP01 RX-78GP02A

RX-78GP03 RX-78GP04

RX-78GP05 RX-78GP06

GUNDAM SIDE STREAM RX-78-2GII

第4回 RX-78-2GII 発展版

ガンダム計画四章 やまと劇

第5回 RX-78-2GII 発展版

ガンダムの甲斐 桐原右衛門

第6回 最強の機体上位

GUNPLA Revelations ～ガンプラの30年の歩み～

第7回 MG×PGから始める 第2次GUNPLA

GUNPLA FRONT RX-78 GP06

川口名人のとことんフラモソ! 義川口己

STAFF
■ Editor 木村一樹
■ Writer 木村一樹、川口己、義川口己
■ Artwork 木村一樹
■ Design 木村一樹
■ Special Thanks

最新情報はガンダムオフィシャルズ公式 Webまで
<http://www.gundamofficials.com/>

Official File Magazine

ガンダム MSヒストリカ Vol.2

—RX-78 GP06

大竹永介

編集: 高田洋平

発行: 株式会社 講談社

〒112-8001 東京都文京区本郷1-14

電話: 03-5885-4401

fax: 03-5885-4402

営業部: 03-5885-4614

販売部: 03-5885-4614

多彩な対戦モード
を仲間と一緒に
オンラインで
楽しめる。



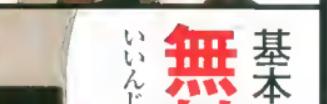
300以上の
モビルスーツを
カスタマイズ可能。



キャラの動きも
バツグンにリアル。



これは、
SDガンダム
ファンの常識を
はるかに超えた
ゲームです！



無料で、
サクッと、
すぐにプレイ！
サービス開始!!!!



基本、
無料
で



戦
場
で
お
う。



緊急出撃
命乞効果
いますぐ
会員登録を！

SDGO

Produced by BANDAI KOREA / Developed by SOFTMAX / Published by CJ Internet Japan.

©創造・サンライズ ©創造・サンライズ・毎日放送 CJ Internet Japan CJインターネットジャパン株式会社 <http://www.sdgo.jp/>



OFFICIAL FILE MAGAZINE

GUNDAM
MS HISTORICA

雑誌 60252-55

ISBN978-4-06-370079-4

C9472 ¥657E (0)

定価・本体657円（税別）

講談社



9784063700794



1929472006572